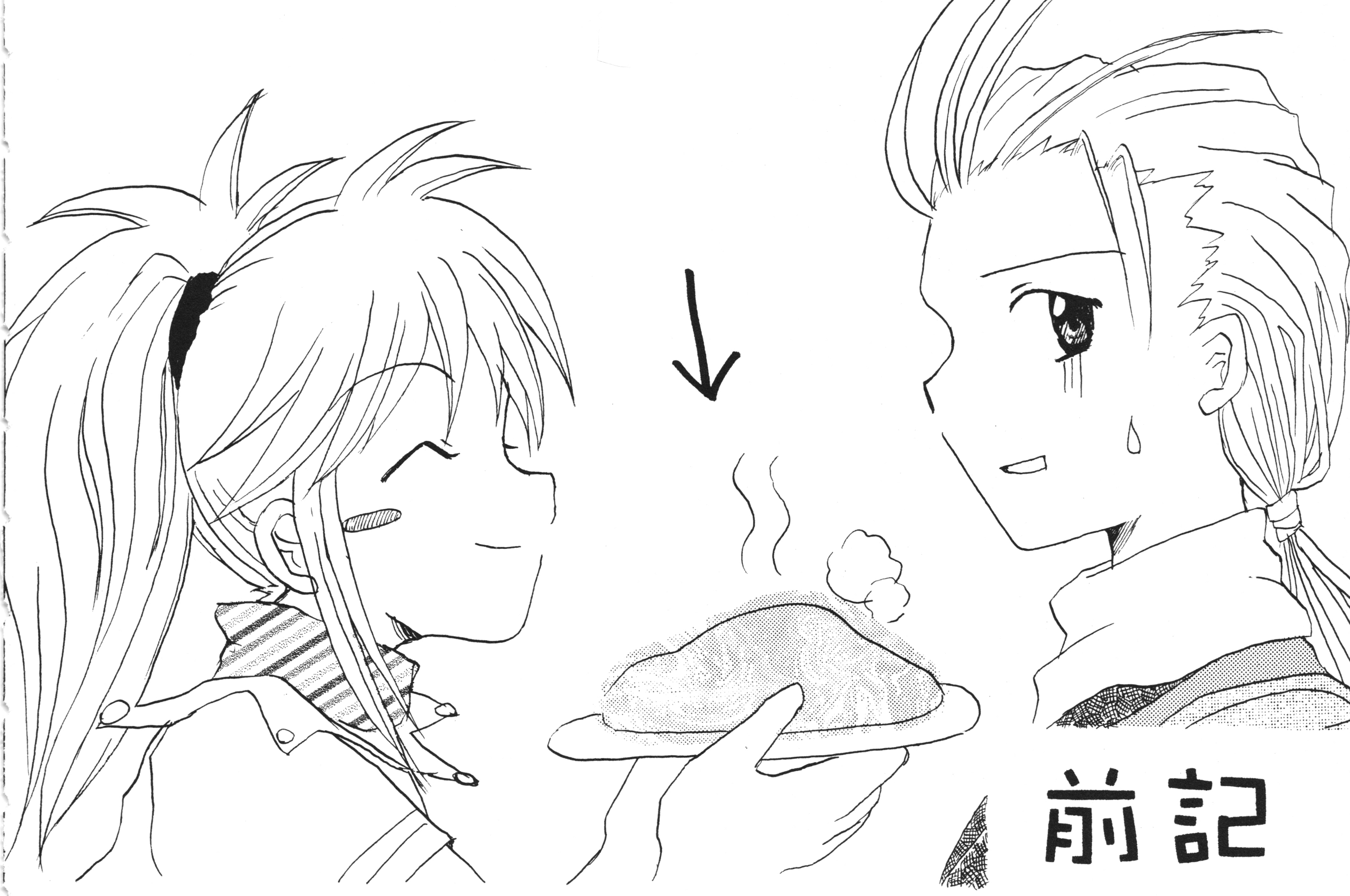

MIRACLE
MOON

MIRACLE MOON

TALES OF PHANTASIA

ChestervArche ONLY BOOK



前記

◆はじめましての方もそうでない方もこんにちは！テイルズ人間チェスアー中毒の霜月はるかです。こんだけ妄想が見えてりゃ中毒でしょう（笑）あはははは。でも幸せだから良いのv←こういうのを中毒といいます。さて、チェスアー本もこれで3冊目となりました。…が。申し訳ない事に今回再録があります（泣）2冊目に収録した前編も今回いれてあります。2冊目をお持ちの方すみません…；この本でながーいストマンやっと完結です。なんか個人誌でこんな厚い本は私初めてです…ドキドキ。ホントに愛と妄想の塊みたいな本ですが、少しでも楽しんでいただけたら幸い。しかしゲームプレイ後すでに5年くらい経ってるので（オイ）ゲームの設定とかあやふやになっててきっと間違いとか多々あると思うんですが、大目にみてやってくださ…ぐふっ！Σ（￣□￣；；）

◆今回結構まんべんなくパーティーキャラは出てる気がします。っていうか人口密度高…；ただ今回の話の時期が、未来に行った直後あたりなのですずちゃんはいないです。すずちゃんファンの方すみません…何かいっつも言ってる気がする；すずちゃんの話も描いてみたいんですよー。ちなみに途中立ち寄る村とかは深く追求したらダメです（オイ）まあこんなところで語ってても仕方ないんでとりあえず漫画へGO！

０１．６　霜月はるか



▪Miracle Moon▪

Presented By
Haruka Shimotsuki

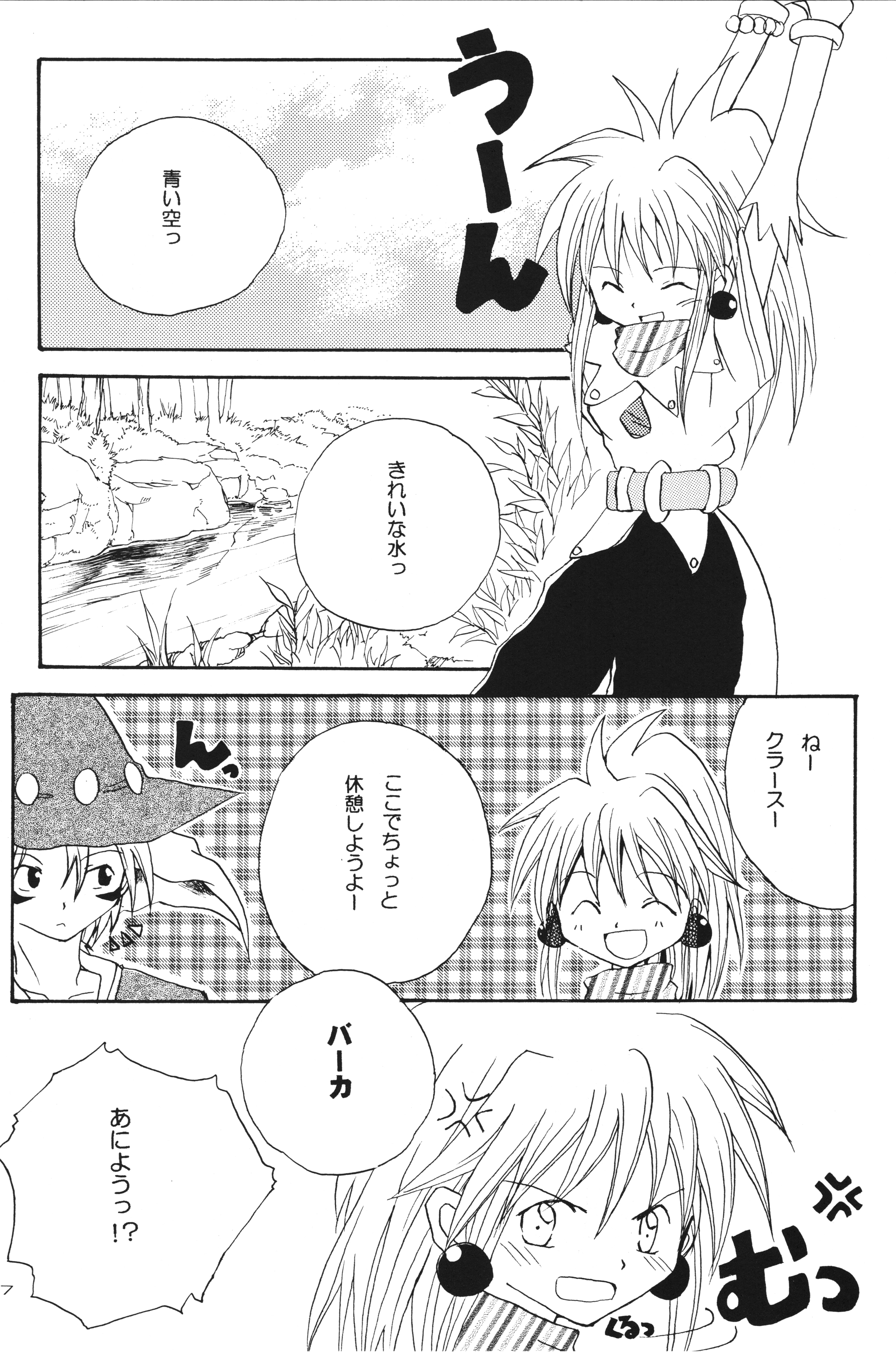
誰にも負けない力が　全てを守れる力が



幸せな日々も　あの笑顔も

もう何もなくさないように…




うーん
青い空っ
きれいな水っ
ねー
クラースー
ここでちょっと
休憩しようよー
んっ
バーカ
むっ
くるっ
あによううっ!?


ヴーーっ
まだ少ししか歩いてねーだろ！
ふう
まあまあ
いいんじゃないかな 今日はそんなに 次の街まで距離は ないし…
よしっ お昼にしよう！
わーい
ア、アーチェさんっ
きゃっ
がしっ
ミントー あっち いってみようよ

なぜかカメラ目線♪


チェスター
どうしたんだ?
カリカリして
最近怒りっぽいって
いうか
なんかイライラ
してないか?
な…
ぐぐっ
なんでも
ねぇよ…
チェスター?
なんでもねぇって
言ってるだろ!


ビクッ
あ…
悪い……
頭
冷やしてくる
あっ…
チェスター…
チェスター?
ずずーっ
ふう


クレス、お茶が美味いぞ
一緒に飲まないか？
クラースさん…。
どっからお茶を……
ほれクレスの分だ
あ…ありがとうございます
クレス、あまり心配するな
あいつにはそれが苦痛になる
え……？


どうしてですか？
親友の
足手まといになるのは
辛いだろうさ
キッ
そんなっ！
僕はチェスターを
そんな風に思ったこと
なんて一度も…
……
あいつは
焦っているんだよ
一緒に育った親友が
いきなり成長して
現れたんだ
クレス、お前が
思っていなくてもだ
え？


彼の性格は
君が1番
分かっているんじゃ
ないか？
あ……
チェスターは
アミィ…守ってやれなくて
ごめんな…
クレス


一緒に敵討とうな
人一倍責任感が強くて
あまり思いつめなければいいがな…
少しそっとしておいてやる方がいいだろう
チェスター…


スタスタ
ふう…
ぴたっ



TALK SPACE

▨ 前回の本で4分の1スペース使ってしまったのでそのままのせるのもアレかと思って書き直してます。(笑)

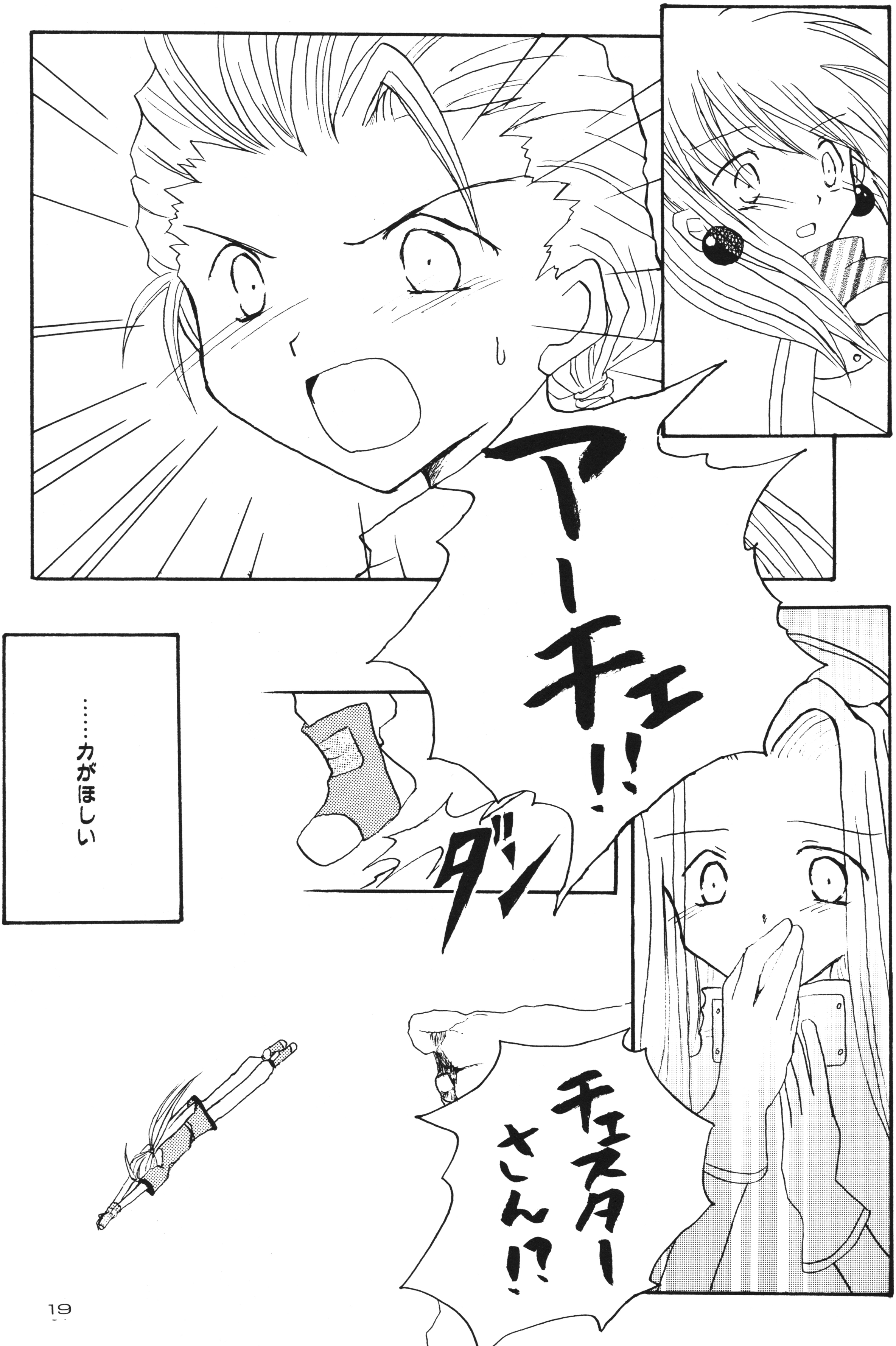
▨ まず再録についてのおわび。前回の本買って下さった方、ホントにありがとうです。ゲスト様のステキな原稿には満足していただけたかと思いますがなんじゃマンガこれだけかいワレェ!!と思われた方…すみません(泣)限られた時間の中の活動なので(汗)で、ホントは上下に分けて作るつもりだったんですが、ありがたい事に前編がなくなり、再販…じゃなくて再販するより、一緒に出しちゃう方が安かったんです!(爆)ビンボー学生の悲しいさだめ(何)ですし。一冊になって読みやすいとは思いますが…買って下さった方には申し訳ないのでイベントで何かサービスを…(笑)ホントにすみません。

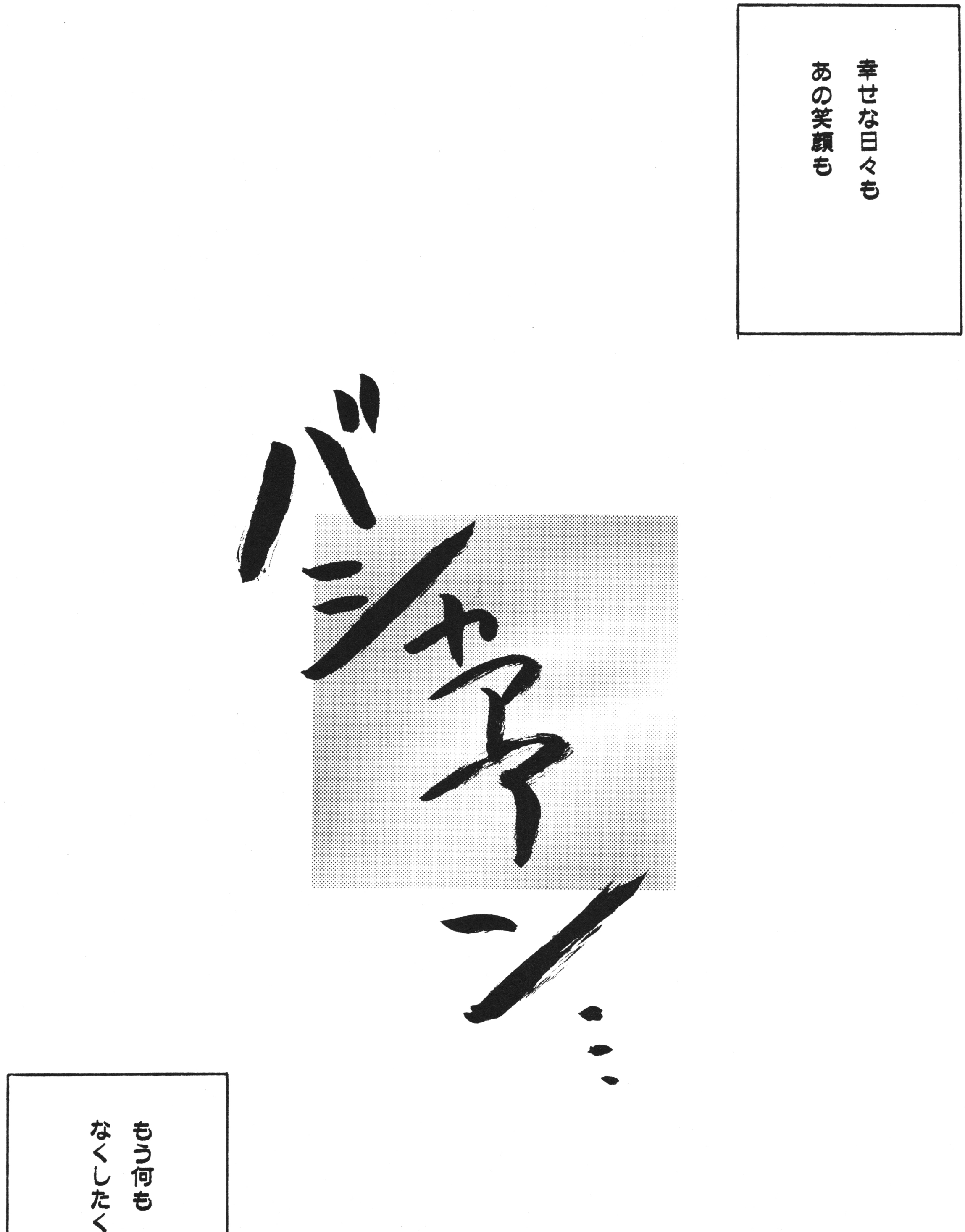
▨ で、私にしてははじめてのこんなぶ厚い本になりました。なんかこんなに完成が楽しみな気持ちははじめてです。嬉しいなー!もともと遅筆&直前型なのでペラい本しか出したことなかったんですが…これもチェスアーへの愛のなせる技!!!めちゃ×2大変でしたが楽しかったです。描いてていい(とかいいつつまだ終わってないんですが全然…汗)しばらくこんな長い話は描く気になれないとは思いますが(笑)
とにかくこの話が少しでもみなさんの心の中に残ればと思います。
ではどうぞ続きをおたのしみください。(笑)



見てみてっ！こっちだよー！！
アーチェさん危ないですよっ！
……最低だ
んっ？近くにいるのか…
ザァァァ
へぇこっちに川があったのか…
ザァァァ…

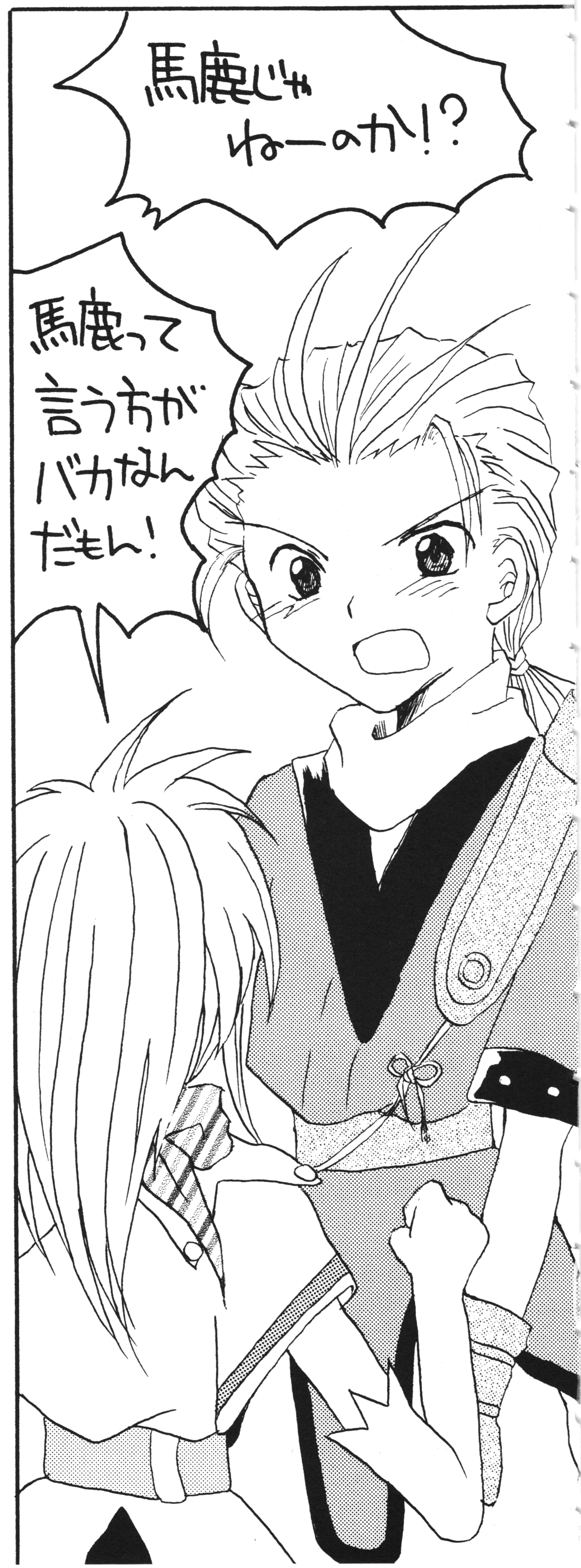

あ、いた…
アーチェさんっ
ザアアアア…
へーきへーきっ
あら…チェスターさん…？
ザアアア…
えっ…
ザア
え……？
ガラ
フッ
クラッ…

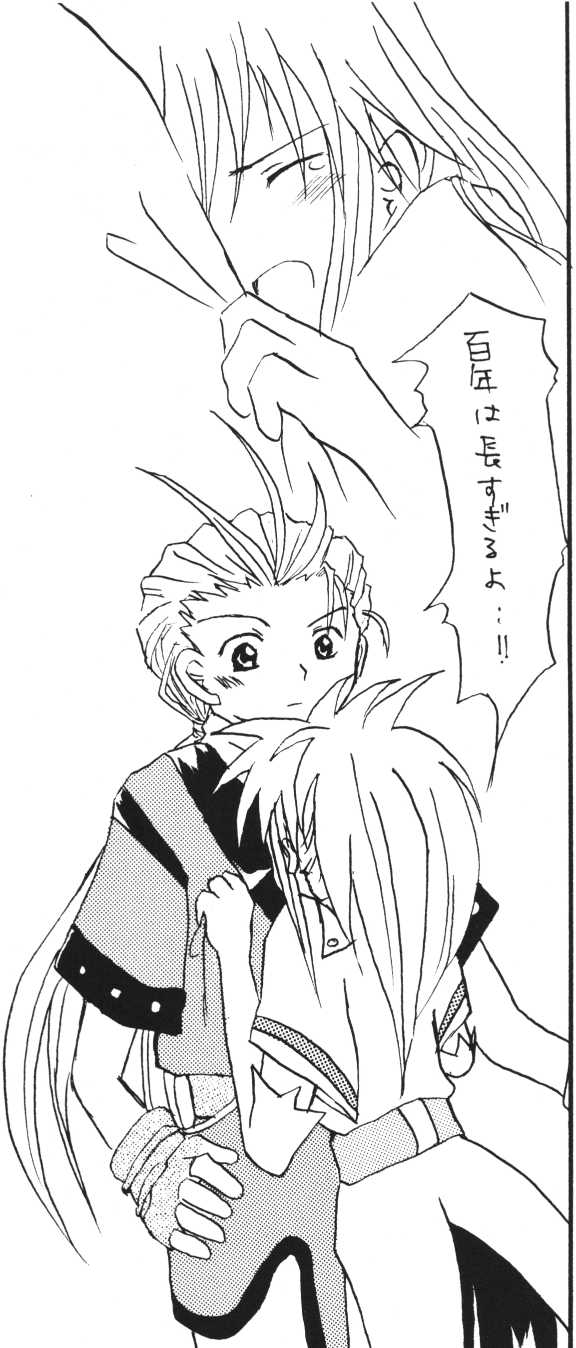

アーチェ!!
ダン
チェスターさん!?
……力がほしい


幸せな日々も
あの笑顔も
バシャアーン…
もう何も
なくしたくないんだ……

＊チェスアー語り＊

◆なんかうちのチェス太（笑）は苦労人です。んでもってなさけなさ１００％です（ダメじゃん…）かっこよく描きたいんだけど完璧なかっこよさじゃないと思うんですよね。チェスターって。最終決戦直前あたりは人外な弓の連射を見せて下さいますが（笑）過去から戻ってきた時からしばらくはアーチェより全然弱っちいじゃないですか。そりゃ仮にも女の子に弱いとか言われたらムキになっちゃうし、それ以前にトーティスの事があるから誰よりも強さを求めてるのがチェスターだと。でもそんなすぐに上手くいくわけなくて、悩んで焦ってへこんで、それでも諦めないで前向きになってるトコがチェスターのカッコイイところだと私は思ってます。アーチェもそうやって前を向いてるチェスターを、表に出さないけど応援してるんですよね～ｖだから修行見に行っちゃったりとかしてっ！あーもう可愛いんだから！（落ちつけ）んでもってチェスアーの醍醐味はやっぱりケンカ！ケンカなしじゃチェスアーは語れません。最初は本気で喧嘩してたんだと思うんですよ。アーチェがチェスターの事弱そうって言った時、チェスターは自分の気にしてる事言われて本気でむかついたと思います。んで、つっかかられて素直に謝るアーチェでもない（笑）いきなり険悪ムードな２人はその後も顔合わせればどっちかがつっかかってるけど、旅をしていくうちにお互いの事よく分かってきて、いつしか本気の喧嘩じゃなくてそんなやりとりが心地よくなっていたりして。「喧嘩するほど仲が良い」って言葉は何かもうチェスアーのためにあるような言葉だなぁと思います（笑）周りのクレス達も「あぁまたやってるよあの２人」みたいな。まさにバカップルですな！最高～！それでいて２人とも純なトコが可愛くて…ｖ意識すると顔赤らめたりとかするんですよ全く！あーもー！そろそろ頭が沸騰してきたので止めておこう（苦笑）



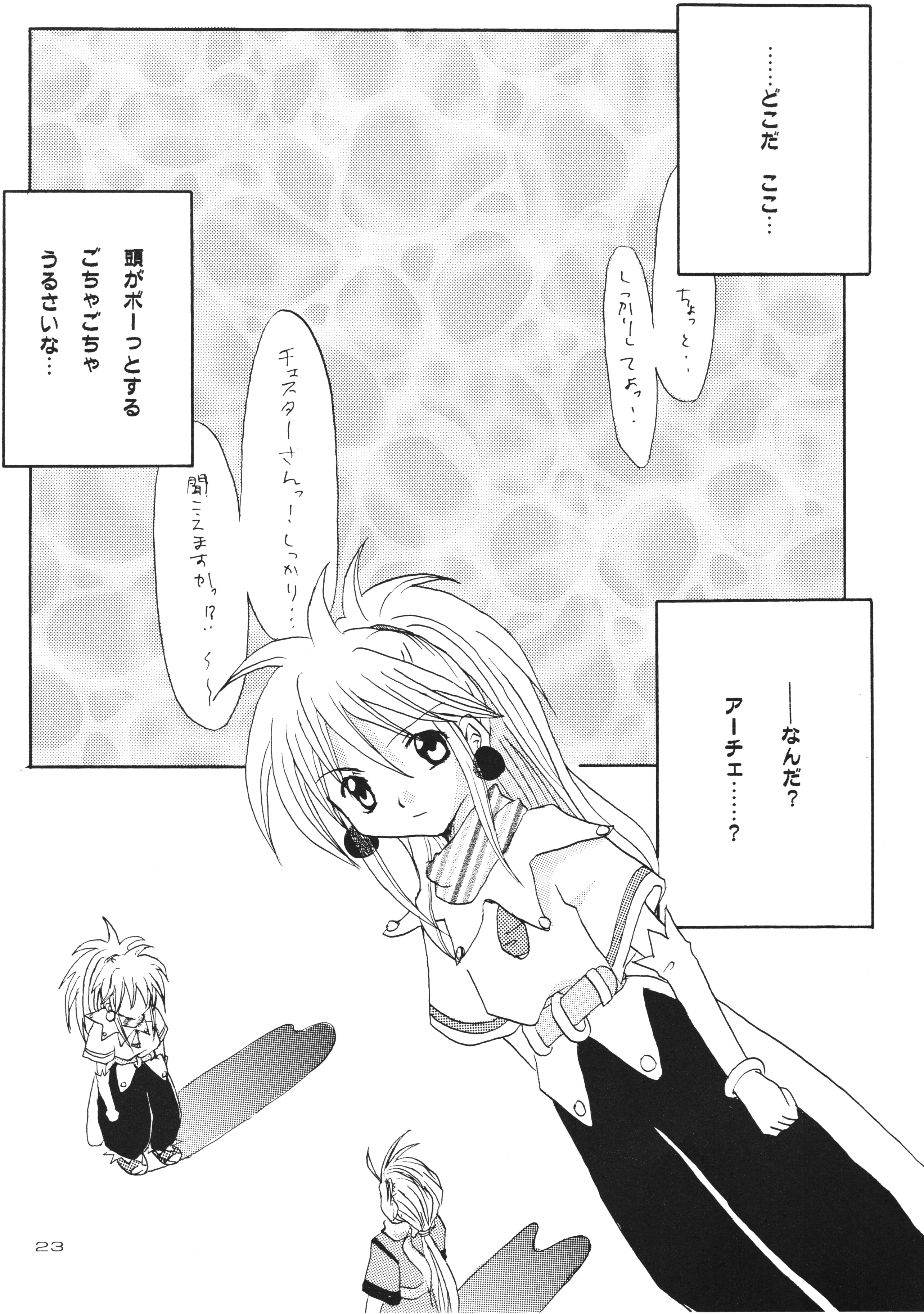


＊チェスアー語り＊

◆チェスアーはゲーム中だともうアーリィのイベントでやられた～！って感じで、更に生きる時代が違うってトコがまた障害を越えた愛って感じで良いのですよ！１００年後の再会…まあそれまでアーチェが１人身でいられるわきゃないと思うんですけど（笑）でもやっぱり何人の男と付き合っても（オイ）チェスターじゃなきゃダメで、そういうとこすごくアーチェって女の子っぽいと思うんですよね～。チェスターは逆に、アーチェより再会を怖がってるっていうか、ドキドキしてると思います。だってアーチェの気持ちが変わっててもおかしくないくらい時間が流れてる。自分の知らないトコロで。その点アーチェは１００年我慢すればチェスがいるんだから安心っちゃあ安心ですよね（笑）チェスター本命の女の子には誠実だろうし結構一途に想うタイプだろうし。アーチェは目移りしそうだから（笑）そりゃチェスターも気が気じゃないでしょうな。再会したら再会したで、今度はチェスターの方がアーチェより先に死んじゃうからまたチェスターは悩む。アーチェはもうクラースとの別れも経験してて、これからも皆と別れなきゃいけない…愛する者との別れの悲しみを知ってるチェスターはそんな悲しみを彼女に味わせるのが嫌で、辛くてアーチェに冷たく接したりとかしちゃったりして。でもそんな事じゃ状況は何も変わらないし、それを怖がってたら誰が心からアーチェの事を愛してあげられるんだ…！って吹っ切って抱きしめるのとか希望。っていうか萌え（爆）あーもう想像するだけで幸せだよぎゃー！（馬鹿）

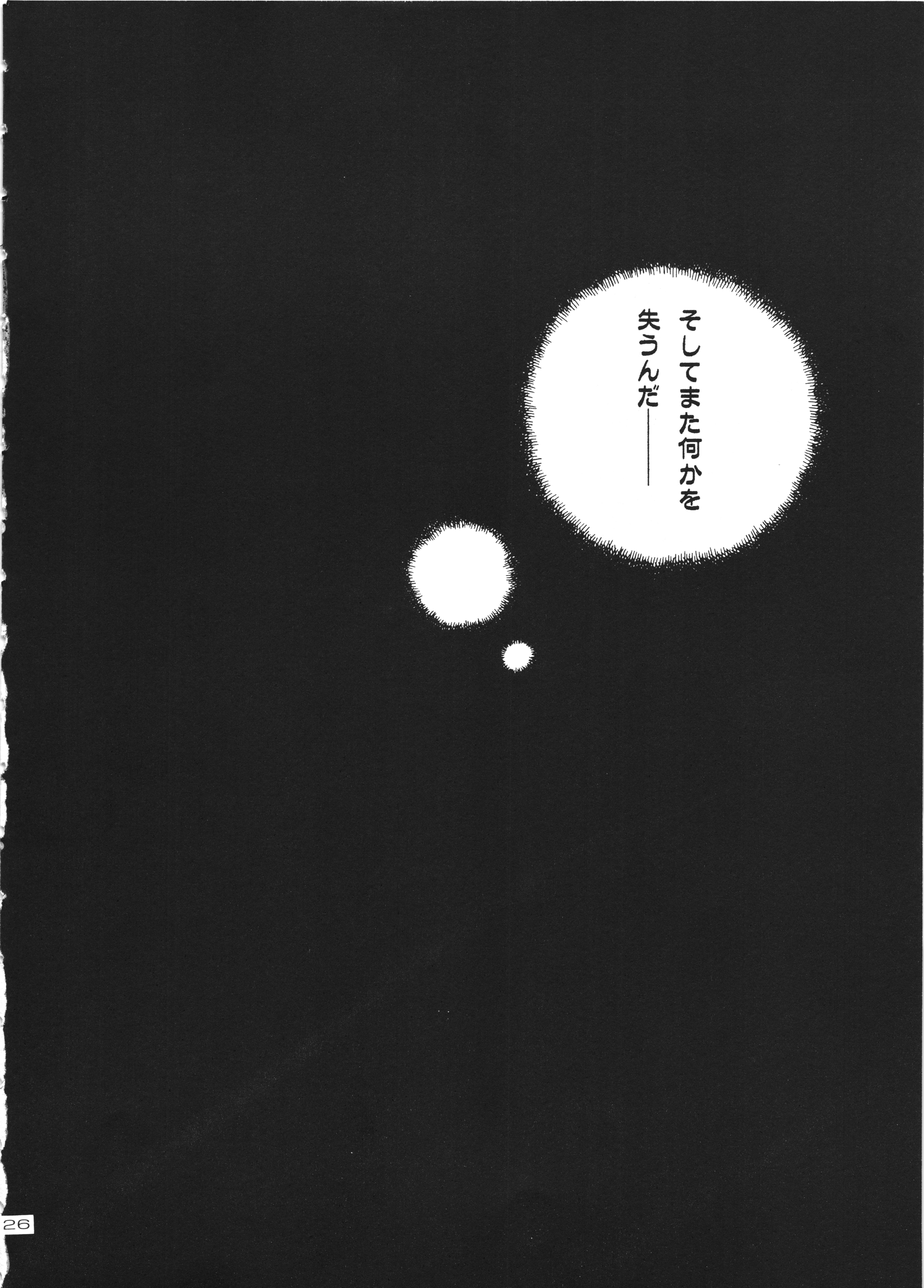
◆そうそう、うちのチェスアーの取り持ち役…っていうかアドバイス役はいつもクラースです。悩んで戸惑ってる時とかクラースが背中を押してくれるっていうのが好き。いやクラース自身全然恋愛下手ですけどね（笑）そこがクラースさんのイイトコロ。クラースって結構不器用ででもそんなところが大好きです。

◆そろそろスペースないので締め。あー思う存分語った！幸せ～！以上っ！

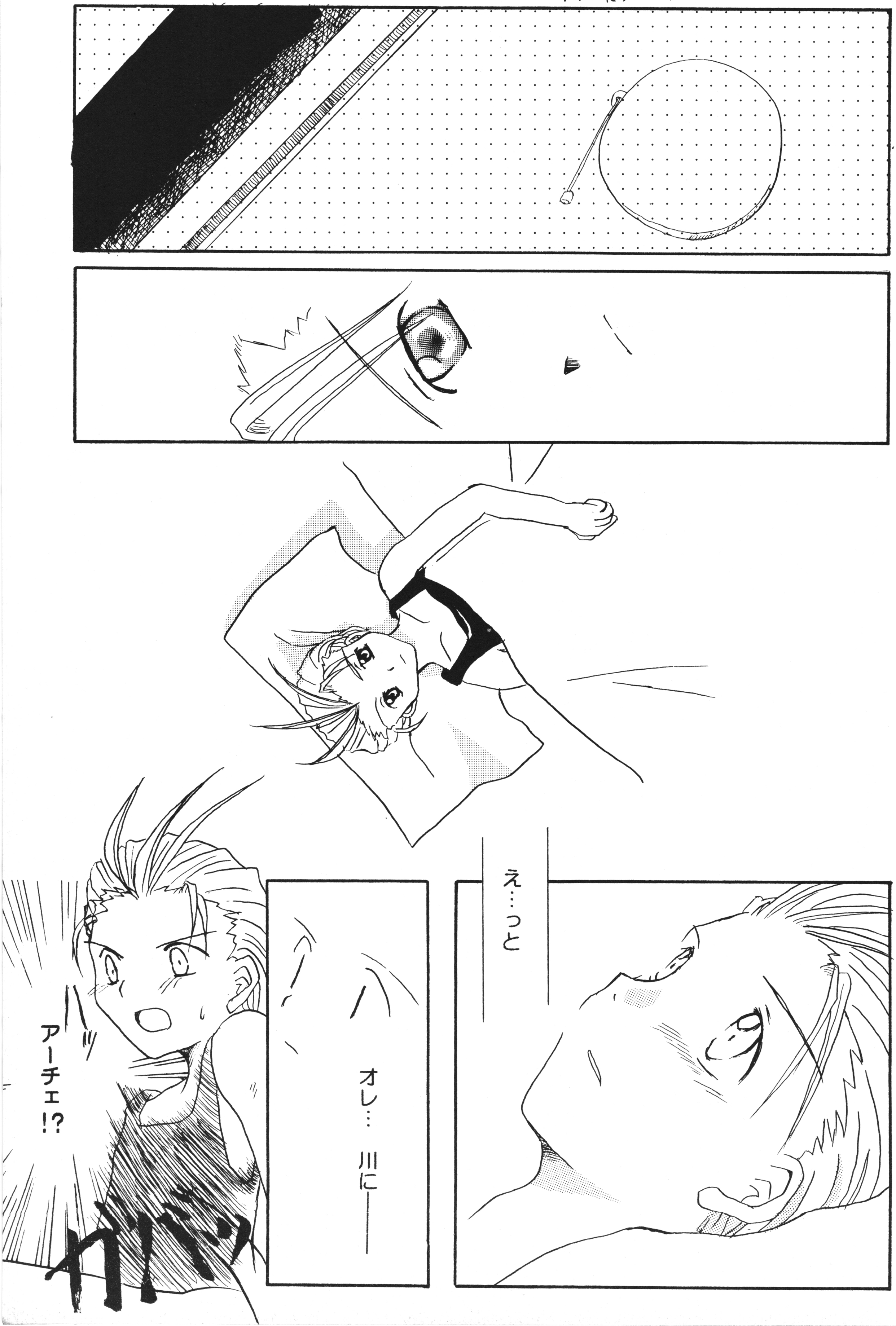

……どこだ　ここ…
ちょっと・・しっかりしてよっ・・
チェスターさんっ！しっかり・・・
聞こえますかっ!?・・く～
頭がボーっとする
ごちゃごちゃ
うるさいな…
——なんだ？
アーチェ……？


プイッ
バカ男ッ！
おいっ！
何なんだよ
一体っ!!
ドッ

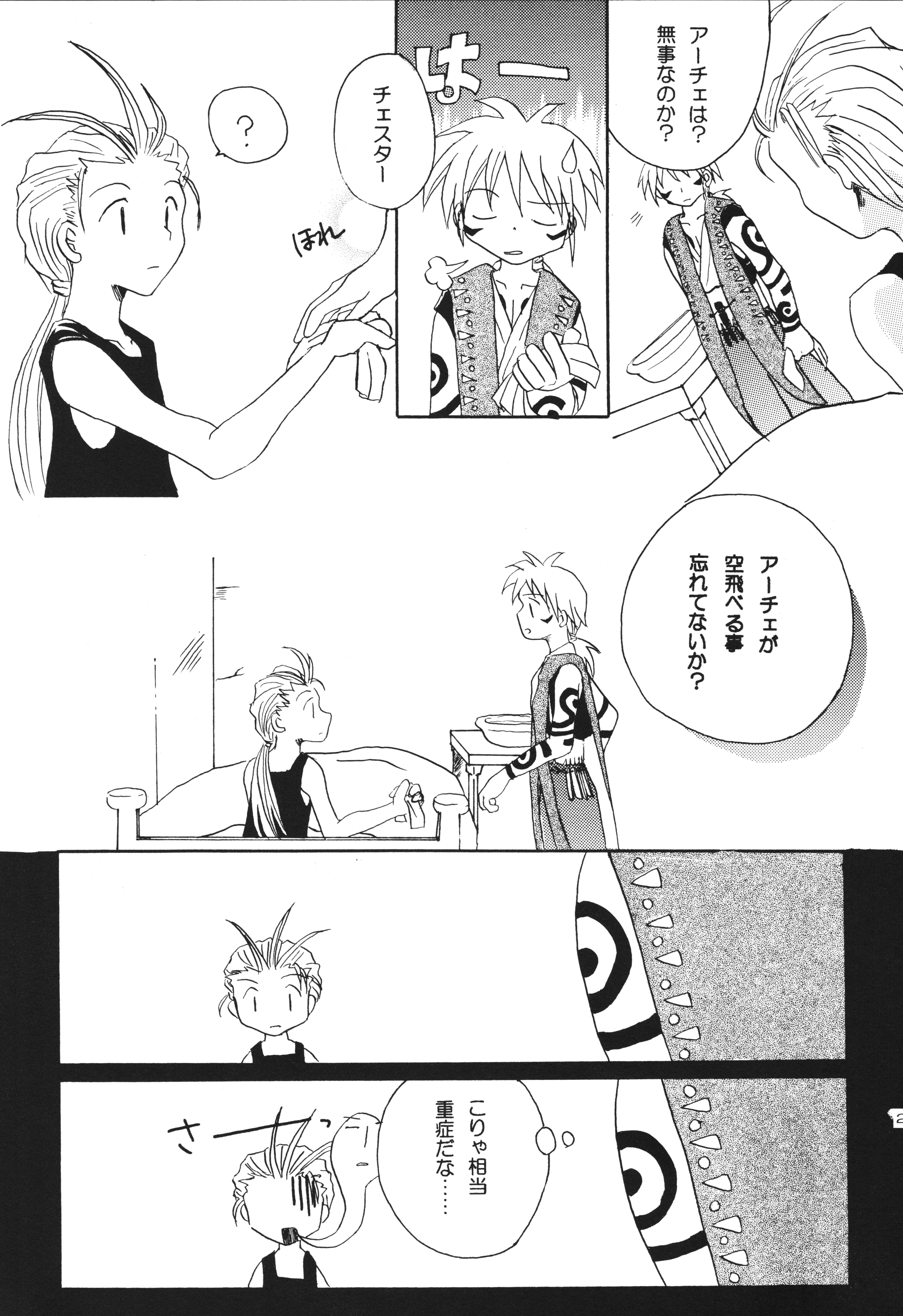

…ちょっ…
待てアーチェ！
そっちは……
オレの手は届かなくて——
アーチェッ!!


そしてまた何かを失うんだ——

天井だと思って…(涙)




ズキ…
イテ…
おお
起きたか～
大丈夫か？
クラースの
ダンナ…
少し熱がある
みたいだからな
タオルで冷やして
おくといい
カタン
…俺
気ィ失ってたんだな
ああ
かなりの
急流
だったしな
自力ではい上がったらしいけどな…


アーチェは？
無事なのか？
はー
チェスター
？
ほれ
アーチェが
空飛べる事
忘れてないか？
こりゃ相当
重症だな……
さーっ


ポスッ
俺…ただの馬鹿じゃねぇか……
カァッ
ま、そりゃ落ちこむわな。
ずーん
ぐっ
よっし励ましてやるか!
チェスター君!!
人間誰しも間違える事はある!


お前さんはまだ若い！若い時は己の未熟さに落ち込む事もあるだろう！
しかぁしっ！
人はそうやって失敗をくり返し成長するものだ！
そう…お前さんには明日がある！
前向きに生きたまえ！そうすれば
私のようなすばらしい大人に……
げほっ
げほっげほっ
げほっげほっ
年甲斐もなくでけぇ声出すから……
…それじゃ私は戻るぞ
いいか？回復するまでゆっくり休めよ
え…でも…

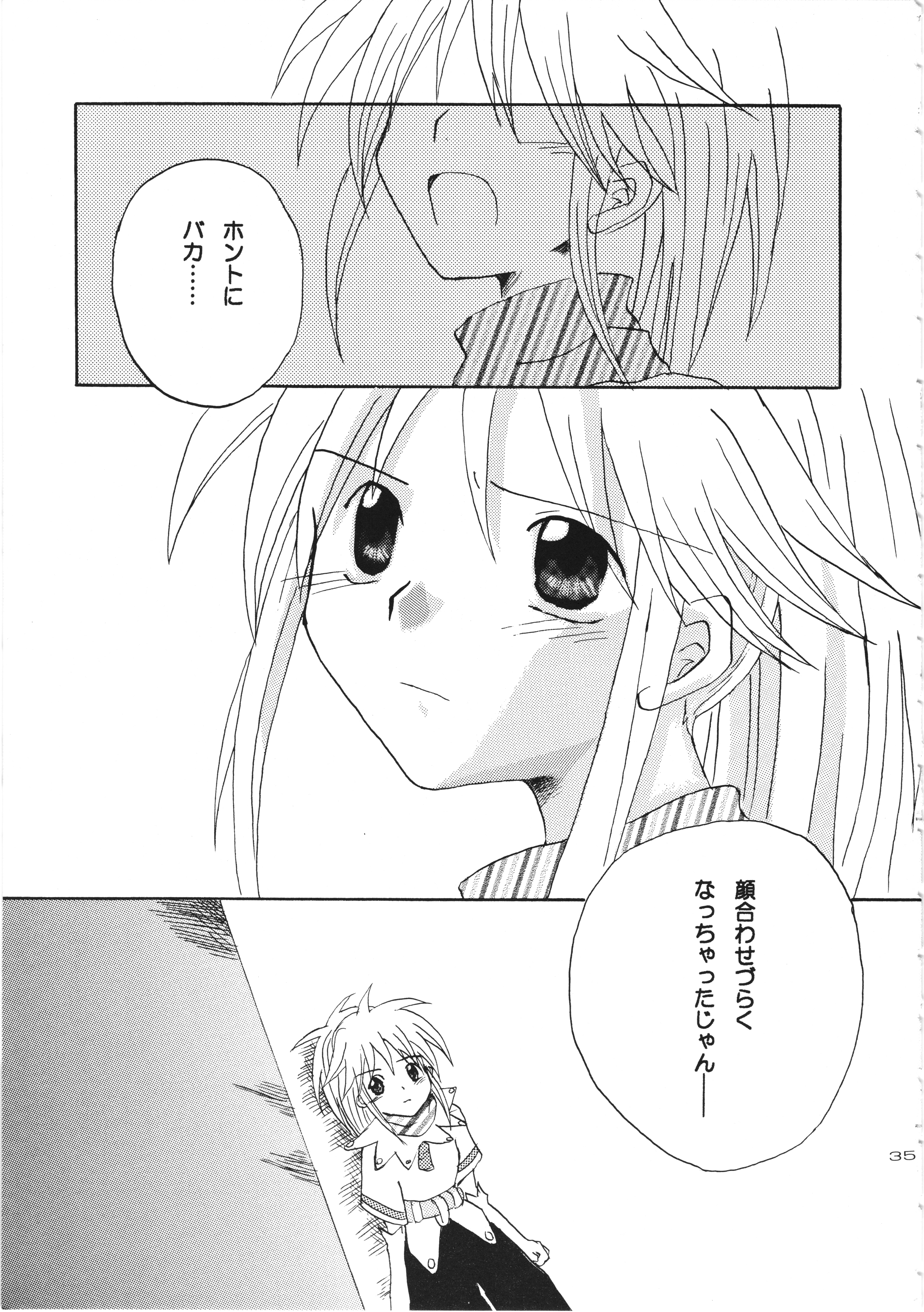
31

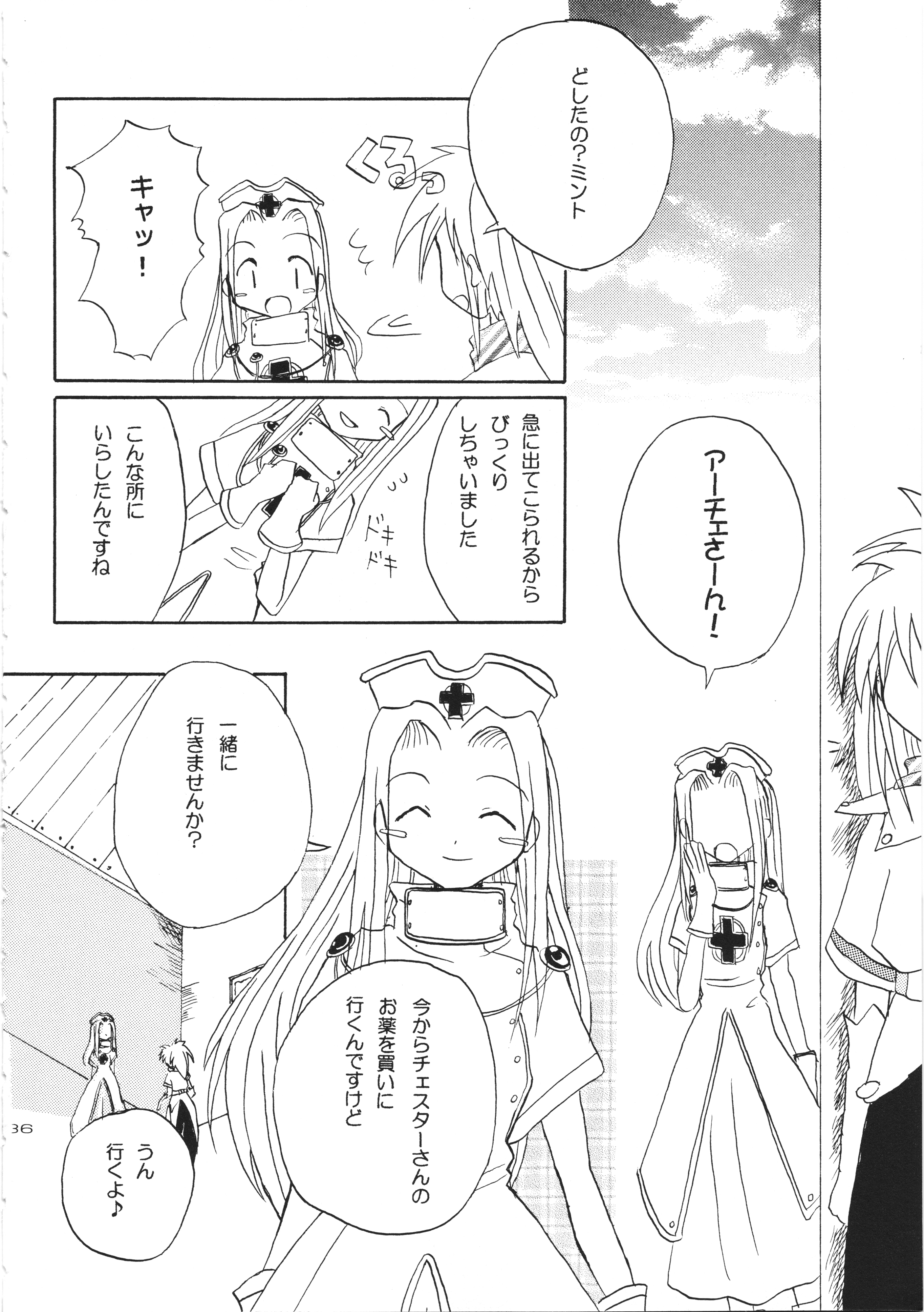


チェスター
あまり焦るな…
お前さんのペースで
やればいいい
じゃあな
パタン

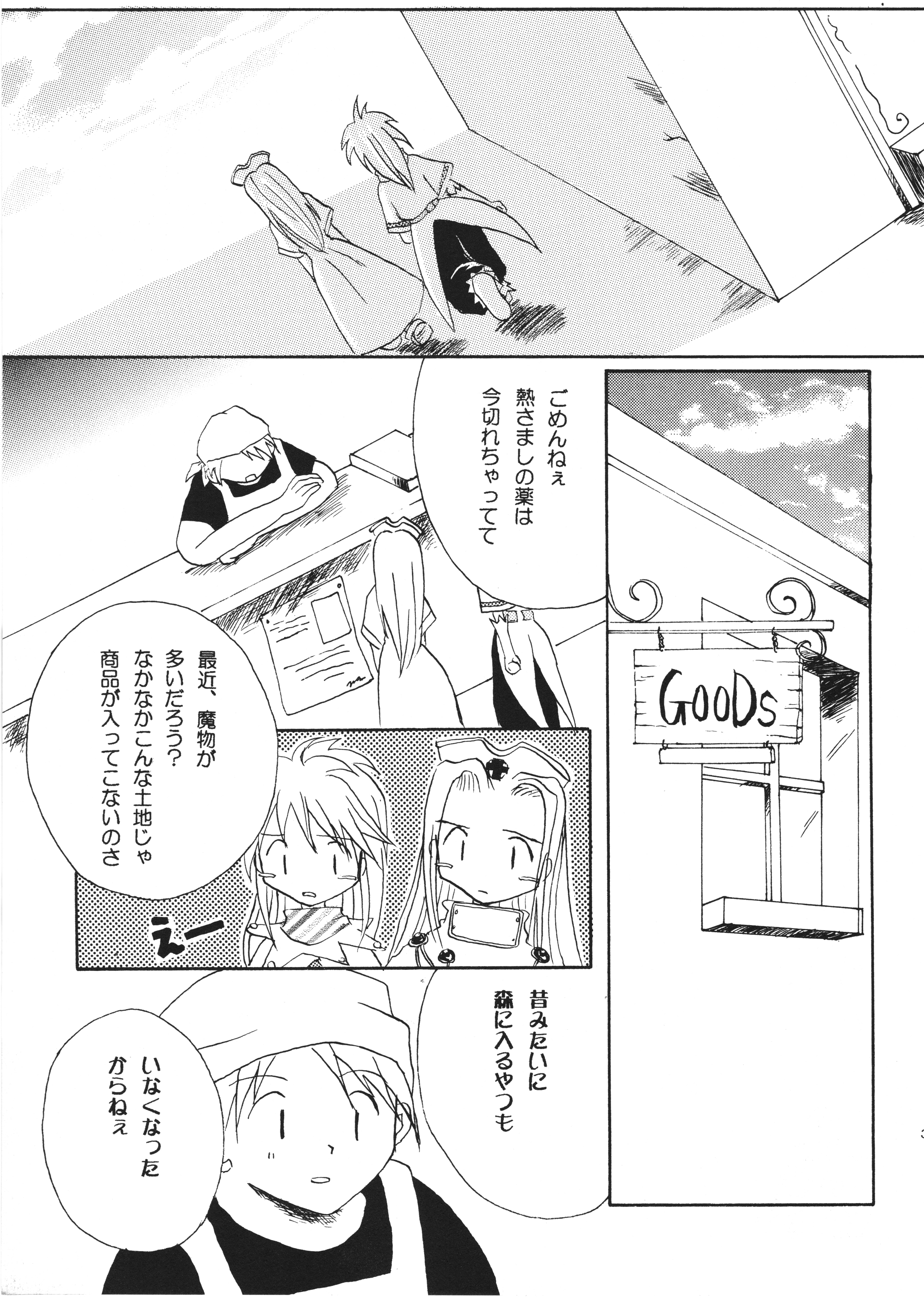

ムクッ
そんな事
いったってよ…
焦らないで
いられるわけ
ないだろ――
今のオレには
何も守れない…
何かを失う前に

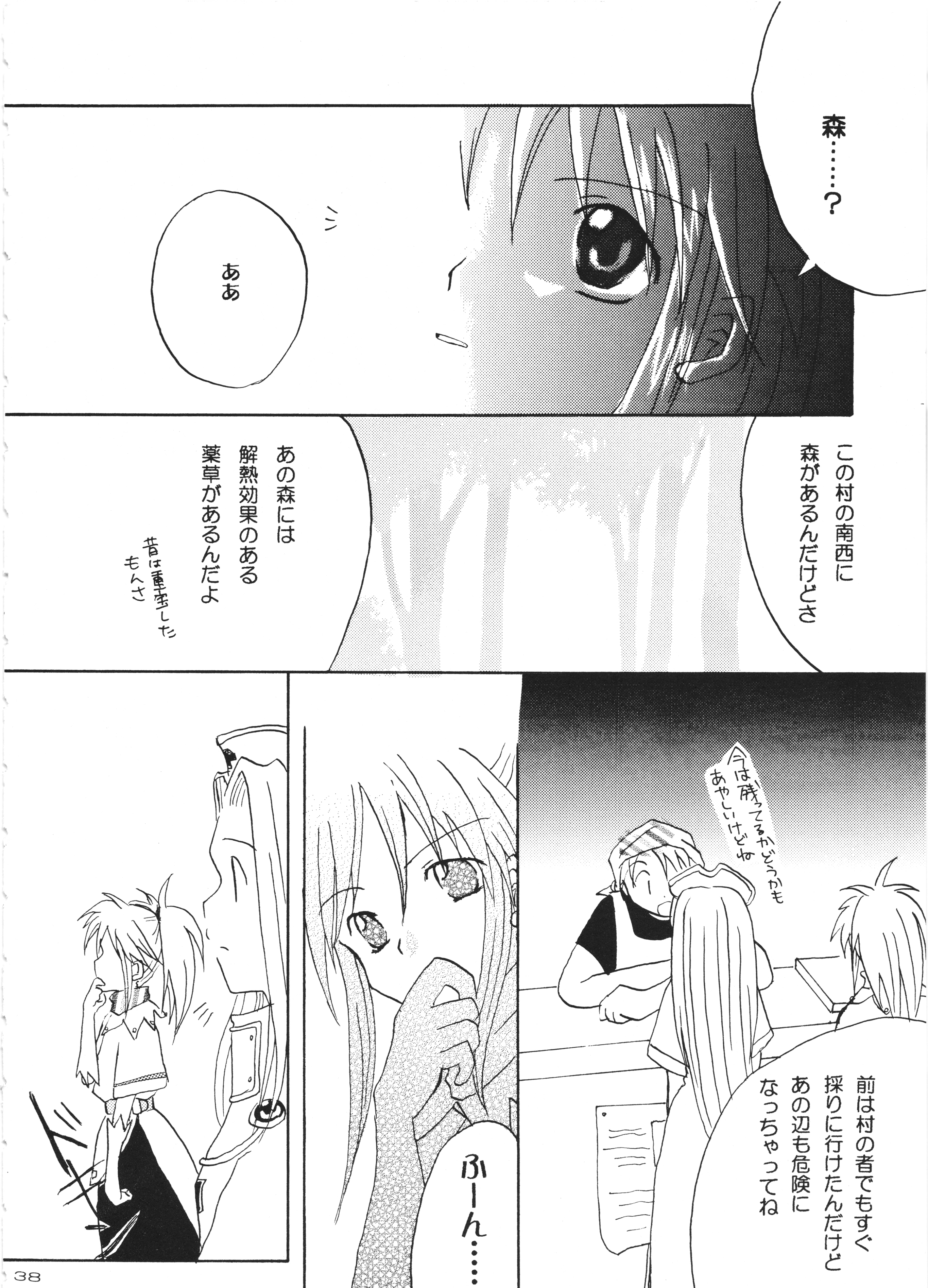

俺が強く
ならなきゃ…
…ったく
なんで
飛び込んだり
するワケ？
アタシが飛べる事
分かってたじゃん

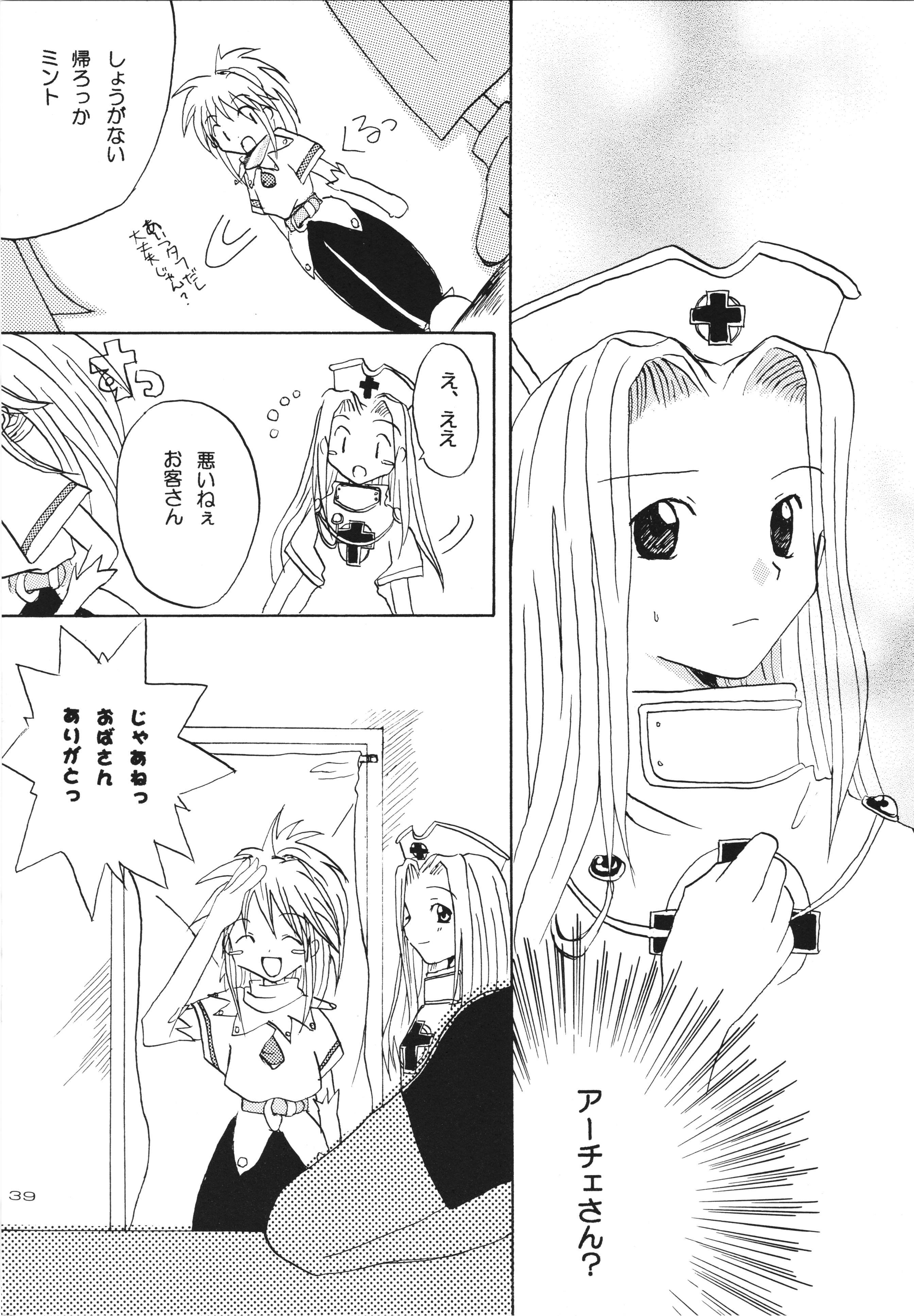

ホントに
バカ……
顔合わせづらく
なっちゃったじゃん――

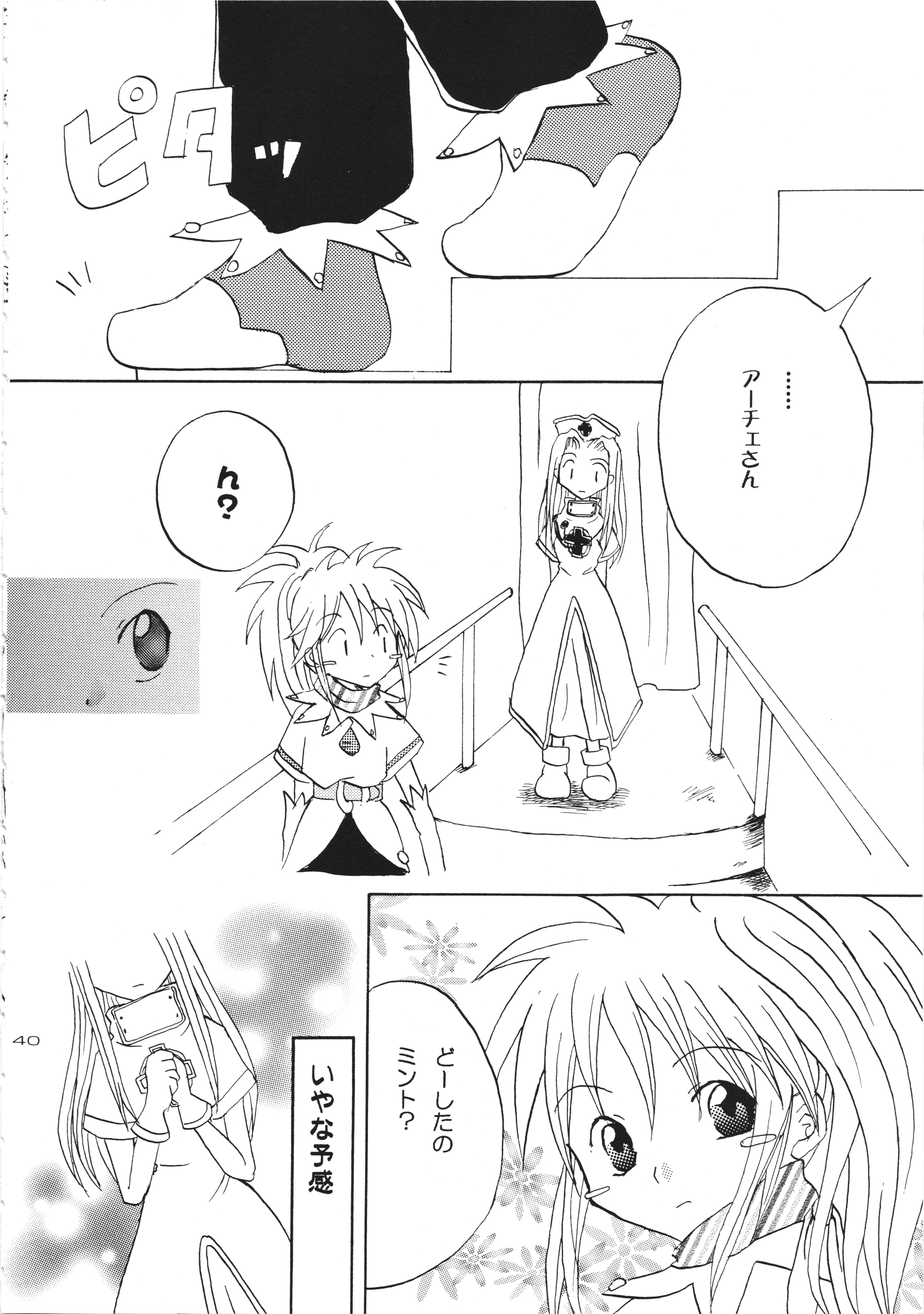


どしたの?・ミント
くるっ
キャッ!
アーチェさーん!
急に出てこられるから
びっくり
しちゃいました
ドキドキ
こんな所に
いらしたんですね
一緒に
行きませんか?
今からチェスターさんの
お薬を買いに
行くんですけど
うん
行くよ♪

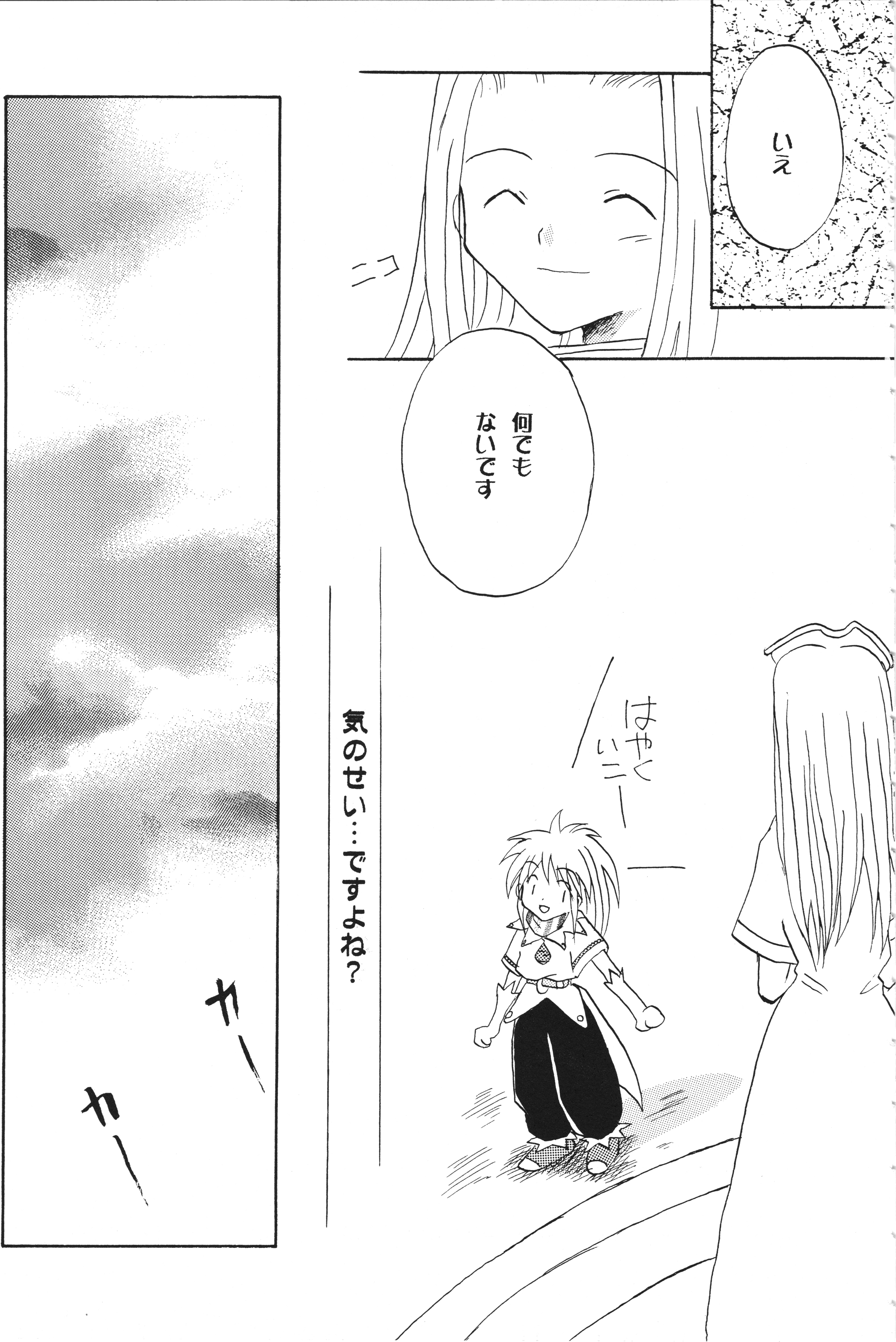

GOODS
ごめんねぇ 熱さましの薬は 今切れちゃってて
最近、魔物が 多いだろう? なかなかこんな土地じゃ 商品が入ってこないのさ
えー
昔みたいに 森に入るやつも
いなくなった からねぇ


森……？
ああ
この村の南西に森があるんだけどさ
あの森には解熱効果のある薬草があるんだよ
昔は重宝したもんさ
前は村の者でもすぐ採りに行けたんだけどあの辺も危険になっちゃってね
今は残ってるかどうかもあやしいけどね
ふーん……


アーチェさん?
しょうがない
帰ろっか
ミント
くるっ
あいつタフだし
大丈夫じゃん?
え、ええ
悪いねぇ
お客さん
じゃあねっ
おばさん
ありがとっ



ピタッ
……アーチェさん
ん?
どーしたのミント?
いやな予感


いえ
ニコ
何でも
ないです
はやく
いこー
気のせい…ですよね?
カー
カー

＊ちょっと一休み＊

次ページからはゲストの神木千歳氏の小説をお楽しみ下さい∨

ココロに刻まれる日

昼間の喧騒はすでになく、静まりかえった景色が不気味さを感じさせる。
辺りは闇に包まれた夜の時で、明かりがなければ何も見えない。
それは街から離れた街道だからかもしれない。
街にいるのならば家から漏れる明かりや、星の光などで淡く照らされることもあろう。
その星も木々が鬱蒼と茂るこの街道では光が届かない。
クレス達一行は未来に来ていた。
すべてはダオスを倒すためである。
今はミゲールの町を出てユークリッドの都に向けて旅を続けている。
その途中で夜営をしている所だった。
すっかり夜が更けているため、モンスターを警戒するために交代で見張りをしている。
かがり火の所にはクレスがいた。
クレスが当番らしく火の近くで腰を下ろして周囲に目を配っている。
その時、ヒュッという音がクレスの耳に届いた。
「何だ・・・?」
気にはなったがここを離れる事もできないのでクレスは座ったまま周囲に神経を張り巡らすことにした。

するとさっきと同じ音がだいたい同じ間隔で聞こえ始めた。
他にも何かが木にあたるような音も同じ間隔で聞こえてくる。
「何だろう・・・」
さすがにクレスは立ちあがって様子を見て周る事にした。
聞こえてくる音は一定の方向から聞こえてくる。
クレスは警戒しながらその方向に向かった。
気配、足音をできるだけ消しながら木々の間をすり抜けて行くと、そこにはかがり火があった。
そして見知った男が一人、黙々と木の的に向かって矢を射っていた。
「チェスター・・・」
チェスターだとわかってクレスはその場へ素直に出て行くとした。
チェスターはクレスが現れても動じることなく矢を射る事に集中している。
「またやっていたのか・・・やっぱりアーチェの言った事が気になるのか？」
その言葉で集中が切れたのかチェスターの体がピクッと動く。
同時に矢は射られたが的には命中せず奥へ消えて行った。
「クレス・・・悪いが邪魔しないでくれ」

そう言うと再び矢をつがえ始める。
(なんか弱そう・・・)
アーチェの言葉が頭をかすめる。
「そこまで気になるのか?」
再びクレスが問いかけるがチェスターは黙々と矢を射っている。
だが今度はいったん間を置いてから、クレスの方に向き直った。
「俺は・・・お前の方が気になるな」
「どうして?」
「お前は過去の世界に行って強くなって帰ってきた。でも俺は何も変わっちゃいない・・・」
「チェスター・・・」
クレスには返す言葉が見つからなかった。
「このままじゃこの手でアミィの仇なんて取れない。足手まといは御免だ」
再び的を見つめ直し矢を射始める。
クレスは何も言えずただチェスターの横顔を見ていた。
汗が吹き出ているその顔には一点の迷いも感じられない。
普段アーチェと喧嘩しているとは思えない男の顔がそこにある。
それを見たクレスは邪魔にならぬようこの場から持ち場へと戻った。
確かにクレスは過去に行って多くの戦いを経験し確実に強くなった。
過去で動いてる間、チェスターのいた現代がどう動いていたのかは今となってはわからない。
ダオスによって滅ぼされたのかもしれないし、クレス達とは違った英雄が現れダオスを打ち倒したのかもしれない。
『時空転移』
それは歴史を変えてしまう恐れがある。
過去に行ったクレスとミント、そして過去に飛ばされた時とまったく同じ時間に帰ってきたクレス達。
そしてダオスは倒された。
これは歴史が変わったのだろうか。
いや、過去にクレス達が行った時点で歴史は変わった。
だが過去では時間が進んでも現代では時間が止まっている。
それはチェスターが成長してない事を意味している。
ダオスと向かい合ったあの時・・・
このままではダオスにかなわないと悟ったモリスンが時空転移でクレス達3人を過去に飛ばそうとした。
だが詠唱が間に合わずダオスの攻撃が先に発動しようとしたその時、チェスターは体当たりを浴びせる。
そのおかげでクレスとミントは過去に行く事ができたが、チェスターはとり残される事となった。
その事に悔いはない。
だが強くなって帰ってきたクレス達を見て、その差に

愕然とした。
（今の俺では・・・）
考えたくなかった。
いつも一緒に行動し互いに己を高めていったクレスとの圧倒的な力の差が、今ここに存在する事を。
その差を埋めるにはどうしたらいいのか。
追いつくためには修行するしかない。
答えは初めから決まっていた。
そうして毎夜みんなが寝静まってから離れた場所で矢を的に打ち続ける。
（なんか弱そう・・・）
再びアーチェの言葉が頭をよぎる。
「くっ・・・」
放った矢は狙った中心とは遠い的の端を捉える。
渇いた音がその場に響く。刺さった場所を見据えて、大きく息を吐いた。
構えを解き、かがり火の近くへ腰を下ろす。
昼間は心地よい暖められていた空気だが、夜になれば体を冷やす冷気になっていた。
火照った体には丁度いいが、またすぐに体を動かすなら冷やさない方がいい。
目の前の炎でチェスターの周囲の空気は暖められ、何もしてなければ心地よいぐらいの温度なのだろうが、今のチェスターには暑いくらいだった。
腰に吊るしておいた水袋を取り出し、中の水を飲む。

水は渇いたのどを潤し吸収され、体の水分と変わる。
水分を取る事で少し体が楽になったように感じる。
それでも毎日のように夜中一人で修行を繰り返してるだけあって疲労は溜まる一方だ。
足手まといだけにはなりたくない。
今チェスターを突き動かしているのはこの一つの想いだけだった。
再び立ち上がると的のある木の所へ戻り、矢を放ち始める。
朝までにはまだ時間がある。
太陽が登ってくればみんな起きてくるだろう。
今の自分の姿をアーチェにだけは見られたくない、そう思ってる自分がいた。
この修行を始めたのはクレス達との力の差を痛感したからだが、そのきっかけがあいつの一言だとはどうしても知られたくない。
すでに意地のようにもなっている。
だが頭の片隅でふと思う事があった。
なぜそこまであの言葉を意識しているのか。
あの時、あの言葉を言われた時むしょうに腹が立った。
それはなぜか。
きっとあいつとは相性が悪いに違いない。
そう思い、雑念を振り払うかのようにひたすら矢を放ちつづける。
そうしてチェスターの夜は明けていくのだった。

◆

ユークリッドの都を抜け、一行は一路ベネツィア市を目指していた。
一刻も早くアルヴァニスタに行き、ダオスの対策を立てなければならない。
ベネツィア港からはアルヴァニスタ行きの船が出ているはずで、それに乗るために向かっている。
だが歩いての移動のためにどうしても時間がかかってしまう。
そして空が闇に抱かれる時間、夜をむかえる。
一行は野営の準備をすると適当な食事をして、一人だけ見張りを残し各々眠りにつく。
今日の見張りはクレスの役目だった。
もっとも夜の間ずっとというわけではなく、ある程度時間が立てばクラースと交代する予定だ。
クレスは拾ってきていた丸太に座りかがり火が消えないように注意を配る。
火を焚いておけば緊急の場合に対処しやすくなるからだ。
夜もふけてきたが今のところ何事も起きない。
さすがにクレスも眠くなってきたのか大きく伸びをする。
（そろそろクラースさんと交代しようかな）
クラースはここの近くで寝ているのですぐに起こせる。
呼びに行こうと立ち上がった時、向こうから歩いてくる者が見えた。
アーチェである。
「アーチェか、どうしたんだ？」
「ん～・・・ちょっとトイレ」
眠い目をこすりながらアーチェは答えた。
「あ、ご、ごめん」
女の子にこんな事を聞いてしまった事にクレスは赤くなりながらあせって謝った。
アーチェは気にした様子もなく適当な返事をしてふらふらと茂みの奥に消えていった。
眠気が優先して意識が曖昧なのだろう。
クレスはアーチェが戻ってくるまでクラースと交代せずここで待ってる事にした。
だが大分時間が経ってもアーチェは戻ってこない。
「おかしいな。まさか寝ちゃってるんじゃ・・・」
再び立ち上がるとアーチェが消えていった方へ歩いていく。
茂みをかき分けて行くと、やがて明りが漏れ始める。
そこにはチェスターが修行していた。
「あ、チェスター。修行の最中悪いんだがアーチェ見なかったか？」
「アーチェ？見てないが・・・何でだ？」
クレスは経緯をチェスターに説明する。

やれやれといった感じでチェスターも捜索に加わる事にした。
クレスと二手に別れて探し始める。
「アーチェー」
チェスターは茂みや木々をかき分けながら闇に向かってそう呼びかけてみたが返事はない。
「ったく、いったいどこに行きやがったんだ・・・」
「探し物はこの娘かな？」
背後から急に声がした。
「誰だっ！？」
危険を察知しそこから飛び退いて距離を取って振り向くと、ローブのフードを目深にかぶった者がいた。
フードのせいで相手の顔は確認できない。
声から察するに男のようで、どこか異様な雰囲気を発している。
そしてその男の前には捜していたアーチェがいた。
だが首の所に男の右腕が巻きついており、首筋にうまく刃が当てられている。
「私の名はルデス。今はダオス様の忠告を言い渡しに参りました」
男は静かにそう答えた。
そこへクレスも合流する。
どうやらチェスターの声を聞き取れたから合流できたようだ。
「ダオスからの忠告だと・・・？」

「お前達には関係のない事だ、早々に過去の世界に帰るがいい。そう申されております」
「悪いがそれはできないな。俺にとってダオスは関係のない事じゃない」
チェスターはそう言って狙いをつけないまま、すぐに矢を放った。
完全な不意打ちだったが、矢はルデスに当たる事なく右にそれていった。
チェスターは不意打ちでルデスを射抜くのが狙いだった。
成功すればいいが失敗すればアーチェの命が危ない。
だからいちかばちかの賭けだった。
「フフフ、相当頭が悪いようですね。立場がわかってないのですか？」
ルデスは右腕に力をこめるとアーチェの首が絞まり、苦しそうにうめく。
「やめろぉ！」
クレスが叫ぶ。
「いいですか、この娘の命が惜しければ即刻帰るのです」
ルデスの言葉が言い終わった瞬間に再びチェスターが動こうとした。
だが、今度はクレスが止める。
「チェスター、お前の狙いはわかるが今は止めてくれ」
「ちっ・・・」

クレスに言われチェスターは弓を下ろす。
最初の一撃で射抜けなかった自分に歯噛みした。
そこへ妙な所からも口撃が来る。
「そうよ、止めなさいよ。あたしに当たったらどうすんのよ！」
ルデスの腕の力が弱められてたからなのか、アーチェが文句を言っていた。
「だいたいあんた下手なんだから無理して攻撃なんかしないでよ！」
「何だとぉ・・・！」
アーチェの言葉が相当頭にきたのか、弓を地面に投げ捨てルデスに背を向けて歩き始めた。
「何処へ行くのです？この娘がどうなってもいいのですか？」
「あぁ、もうかまわねぇよ。好きにしてくれ」
振り返りもせずにそう答えて、チェスターは茂みの中に消えていった。
「おい、チェスター！」
クレスが叫んでもチェスターは戻ってこない。
ここで諦めるという事はアミィの仇を取るのも諦めるという事を指している。
（それなのに・・・）
「こんな時に仲間割れとは・・・フフフ、たいした仲間だ」
ルデスはいやらしく笑ったが、それでも切りこんでいけるようなスキがない。
「さっきの男と同じように武器は捨ててもらいましょうか」
クレスは仕方なくルデスに従い、剣を無造作に前方に放り捨てる。
「さぁ、早く決めなさい。さもないとこの娘が死ぬ事になりますよ」
（どうする・・・？）
このままルデス、いやダオスの言いなりになって過去の自分達の時代へ帰らなければならないのか。
もしこの場だけ言う事を聞いて過去の世界に返ったとしても、再び未来にこれるかどうかわからない。
打つ手もなく、諦めかけていたその時だった。
ヒョウと音が鳴ったかと思えばルデスの顔の横を矢がかすめて後ろの木に刺さる。
ルデスの顔には一本の赤い筋ができていて、そこから血が流れ出した。
「なっ・・・！？」
急に起こった事態にルデスに一瞬の間ができる。
クレスはそこを見逃さなかった。
捨ててあった剣には目もくれず、ルデスに向かって肩口からぶつかっていった。
「がっ！？」
虚をつかれていたため体を浴びせられたルデスはアーチェをその場に残し、クレスと共に大きく後ろに吹き

飛ばされた。
しかし、そのまま倒れる事はなく空中で態勢を整えて着地する。
クレスも着地するとルデスと一定の距離を保ち対峙する。
「フフフ、先ほど去った男の仕業のようですね・・・貴方達を侮りすぎていましたか」
ルデスは不気味な笑みを浮かべながら言う。
「ここは引くとしますか。次回お会いした時は私も本気でお相手いたしましょう。では・・・」
するとルデスは体は宙に浮き、光を纏うと残留光を残し、その姿を完全に消した。
念のためしばらくはクレスは警戒して構えを崩さなかったが、何も起こらなかったので大きく息をはいた。
振り返りさっきの場所へ戻るとアーチェは尻餅をついたままでぼうっとしている。
「大丈夫かい？」
クレスが手を差し伸べたがアーチェは立とうとせず、一箇所だけをじっと見つめていた。
その方向を見てみれば先ほど飛んできた矢があった。
クレスはその矢を木から抜くと、その矢を確かめてみる。
チェスターがいつも使ってる矢に間違いなかった。
「・・・まぁったく危ないわよね。でもどこから撃ったのかわからないけど
うまく顔をかすめるくらいなんだから相当上手い人が助けてくれたのかな？あのバカ男とは大違いだね」
お尻をはたきながらゆっくりと立ち上がったアーチェは締め付けられてた場所を撫でる。
そこには強く締め付けられてたからか赤く跡が残っていた。
「いや、これはチェスターがやったんだよ」
クレスの言葉にアーチェは衝撃を受けた。
「嘘！？あいつが？まさか・・・」
そう言ったアーチェにクレスは先程抜いた矢を見せる。
「この矢はチェスターが使ってる物なんだ」
「・・・でも1週間前会った時はあんなに弱そうだったじゃん？」
アーチェ自身、何を焦っているのかわからずも、クレスに詰め寄る。
「アーチェにそう言われてから、チェスターは毎晩遅くまで修行しているよ」
本当はチェスターには内緒にしておいてくれって言われてたんだけどね、ともクレスは言って矢をアーチェに渡す。
渡された矢をしげしげと眺めるが、その矢にチェスターが使った物という証拠はない。
だが状況を考えてみればチェスターがやったとしか思えないのだ。
初めて会ってから常に口喧嘩ばかりしていた。

クレスと初めて会った時には普通に話せたのにチェスターだけは・・・
なぜチェスターとはつい憎まれ口を叩いてしまうのだろう。
今日だって危険な状況のはずなのに口喧嘩をしている。
チェスターは愛想をつかしたのか、途中でどこかへ行ってしまった。
それなのに・・・
「チェスター・・・」
矢を見つめながら自然と彼の名前が漏れる。
アーチェの中でチェスターが他の仲間とは少し違う存在になり始めたのだった。

◆

かがり火が辺りを明るく照らしている。
辺りは火が燃えている音、矢の音以外まったく静かで、夜の森では不気味さも相変わらずである。
ヒュッと音がすると木の所にくくりつけられた的に矢がささった。
チェスターは今日も修行を続けている。
実戦をしていく毎に確実に上達している事は感じていた。
別に周りに認めさせようという気はない。
いや、全くないかと言えば違うかもしれない。
とにかく今はみんなと同じラインに立ちたい。
そうして矢を射る毎日が続いている。
幸いこの事はアーチェには気づかれてないらしい。
気づかれていたら絶対からかわれると思っている。
クレスもあの日からは一回も見に来ていない。
だから集中が切れる事はなかった。
矢を弓につがえるとキリキリと引き、的を狙ってヒュッと放つ。
集中できてるのだろう、矢は的の中心近くに刺さった。
再び矢をつがえ、放とうとした時だった。
ガサガサガサ・・・
「誰だ！」
おそらく誰かが近づいてきたのだろう。
用心して音がした方向に弓を向ける。
そして出てきた者の姿を見て、弓を下ろしながら憮然とした。
「あんた、こんな所でやってたんだ・・・」
アーチェだった。
何かを持ってるのか両手とも後ろにまわしていた。
「・・・何しに来た？邪魔するつもりなら戻ってくれ」
そう言ってチェスターは再び修行を再開した。
一番見られたくない者に見られたために少々語気が荒かったかもしれない。
「何よ、そんな言い方しなくてもいいでしょ！！」
カチンときたのかいつもの調子で言い返してくる。

ただいつもと違うのはチェスターがそれに付き合わない事。
チェスターは押し黙ったまま黙々と矢を放ち続けていた。
アーチェの方もそれ以上は何も言わず、火の近くに腰を下ろしてチェスターの様子を見ている。
そのままどっちとも口を開かなかったが、心の中で色々な事が浮かんでは消えていく。
あの言い方、この修行の事を知ってる・・・？
そもそも何しに来たんだ？
やっぱりからかいにでも来たのか？
そんな心を見透かすかのように矢はまばらに的に刺さっていく。
「ふーん・・・あんまり上達してないじゃん」
「何だとぉ・・・！？」
これにはさすがに矢を撃つのを止めた。
弓を使ってないアーチェなんかに何がわかるんだ。
そんな気持ちが芽生える。
アーチェの所に詰め寄ると、アーチェが後ろ手に持っていたものを見せてきた。
そこには一本の矢があった。
「この矢、あんたのでしょ？」
それは今日アーチェを助けた矢だった。
「知らねぇな」
ちらっと矢を見たがすぐにチェスターはそう答えた。

「嘘、クレスがチェスターのだって言ってたもん」
（そうか、クレスはここの事を教えたんだな・・・）
きっとクレスが何か意図があってアーチェにここの事を教えたんだ。
何を考えてるのかはわからないが、結局アーチェに修行の事がばれてしまった。
明日クレスに文句でも言ってやろう。
ふと見るとアーチェはにやにやしながらこっちを見ている。
「知らなねぇもんは知らねぇ。世の中に矢なんていっぱいあるからな！」
チェスターはむきになって怒鳴り返していた。
こういう所は我ながら少々情けなくもある。
この問答が鬱陶しくなったのか、チェスターはまた矢を撃ち始めた。
「そうよねぇ、やっぱあんたじゃないか。あんただったら絶対あたしに当たってたもんね」
そう言うとアーチェは矢を地面に置いておもむろに立ち上がった。
「それじゃ、あたしはもう一眠りしよっと。んじゃねぇ」
そして来た道を戻ろうする。
（いったい何しに来たんだ・・・）
ここにアーチェが来てした事といえば、いつものようにからかいに来ただけだった。

こんな事をさせるためにクレスはアーチェに教えたのか？
一気に疲れをどっと感じ、いったん弓を止め休憩しようかとかがり火の所に戻ろうとした。
「チェスター」
そうアーチェの声が聞こえた。
ふと見ればこっちを振り返っている。
とどめの一言でも言うつもりだろうか。
だが聞こえてきたのは、思っていた事と明らかに違う言葉だった。
「ありがと・・・ね」
そう言うとアーチェは小走りに去っていった。
その時のアーチェの顔は少し赤みがかってたようにも見えた。
（ありがと・・・ね）
チェスターの心の中でアーチェの声がリピートされる。
アーチェの口から今まで出てきた言葉とはまったく違う言葉。
「あいつ・・・」
本当はこの一言を言いに来たのだろうか。
（いや、まさかな・・・）
その言葉を振り切るかのように頭を振ると、さっきまでアーチェが座っていた所に腰を下ろす。
足を伸ばすのに邪魔になる矢を無造作にどかすと、他にもそこに置いてあるのが目に付いた。

それは水袋だった。
「あれ、こんな所に置いたっけ？」
自分の腰の所を見るとまだ水袋は装着されたままだ。
となればアーチェがここに置いていったんだろうか。
その水袋を手に取り栓をあけると、中の液体を口に含んでみる。
ごく普通の水だがよく冷えていた。
修行で火照った体にこの冷たさが心地良い。
（わざわざ冷やしておいてくれたのか・・・？）
いつも口喧嘩をしている相手。
何かと自分につっかかってくる相手。
でも今日のような一面もあるハーフエルフの少女。
アーチェ＝クライン。
なんとなくだがあの少女の事を考えている。
かがり火に顔を照らされた真剣な顔には、淡く微笑が浮かんだ。
この時、彼女の名がチェスターの心に刻まれたのだった。
そして今日も夜は静かに明けていく。


クス
パチ
パチ!

★ゲスト様コメント★

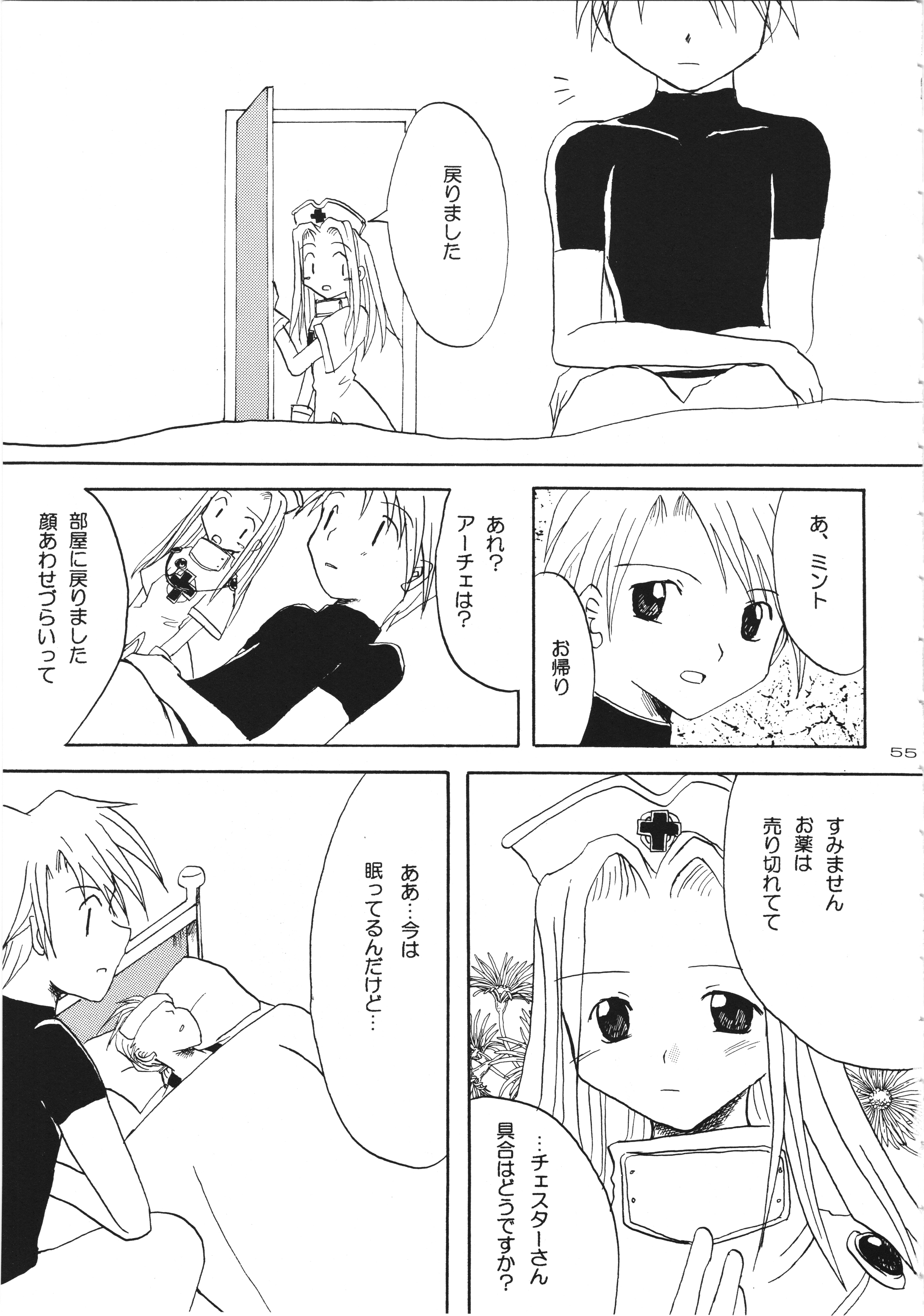
皆様、こんにちは。神木千歳という者です。今回、霜月はるか様(以下はるる)のこの本にてゲストとして参加しました。というかそもそも同人デビューだったりもします(ぉ
いきさつとしましては・・・はるるとネット上で話していたらこういう運びになっていました(笑)
というわけで「ココロに刻まれる日」というお話をお送りしました。
いちおうチェスアー話になっています(なっているはず?)。もともと恋愛系(?)の話を書くのがちょっと苦手なのですがはるるに「チェスアー書いて(ラヴラヴ)」のような事を言われたので書く事に(笑)私はもともとあまり同人本を読まないのですが TOP 物の本の中でチェスアー話(恋愛系)を見ると、この二人がある程度お互いの事を想っている話が多いような気がします。この話では私はまだそこまでお互いを意識してない時、もしくは意識してるのかもしれないけどその気持ちにまだ気づいてない時のチェスアー話を目指して書いたつもりです。力量が足りないので、ちゃんとその通りに表現ができているのかどうかは謎なんですが・・・
個人的に小説を書いてる時よりも、苦手なジャンルを書いているせいか時間もかかってしまったり、行き詰まってしまったりで何か大変でした。あと私は TOP に関しては SFC 版、PS 版のゲームでしか知らないのですよ。小説版は読んだ事ないし、ドラマ CD も聞いた事ないし(^^;
だからこの話を読んでくれた皆様がもし「こんなのチェスアーじゃない!」って思われても私に石や釘、ワラ人形など使わないで下さいね(爆死)話の内容が少々ありがちなパターンだったりしても上記の攻撃方法等禁止です。ちなみにルデスは今回のために適当に出したヤツなのでこれからどうなるかまったく不明です(ぉ
もしこの話が皆様のココロに少しでも印象に残ってくれたら筆者としてこれ以上嬉しい事はありません。では次回があるのかまったくわからないのですが、どこかで見かけたらまたよろしくお願いします。

PN(HN):神木千歳
ホームページ「The Last World」:http://www.eclipse.gr.jp/kamiki/
メールアドレス:xyz@eclipse.gr.jp

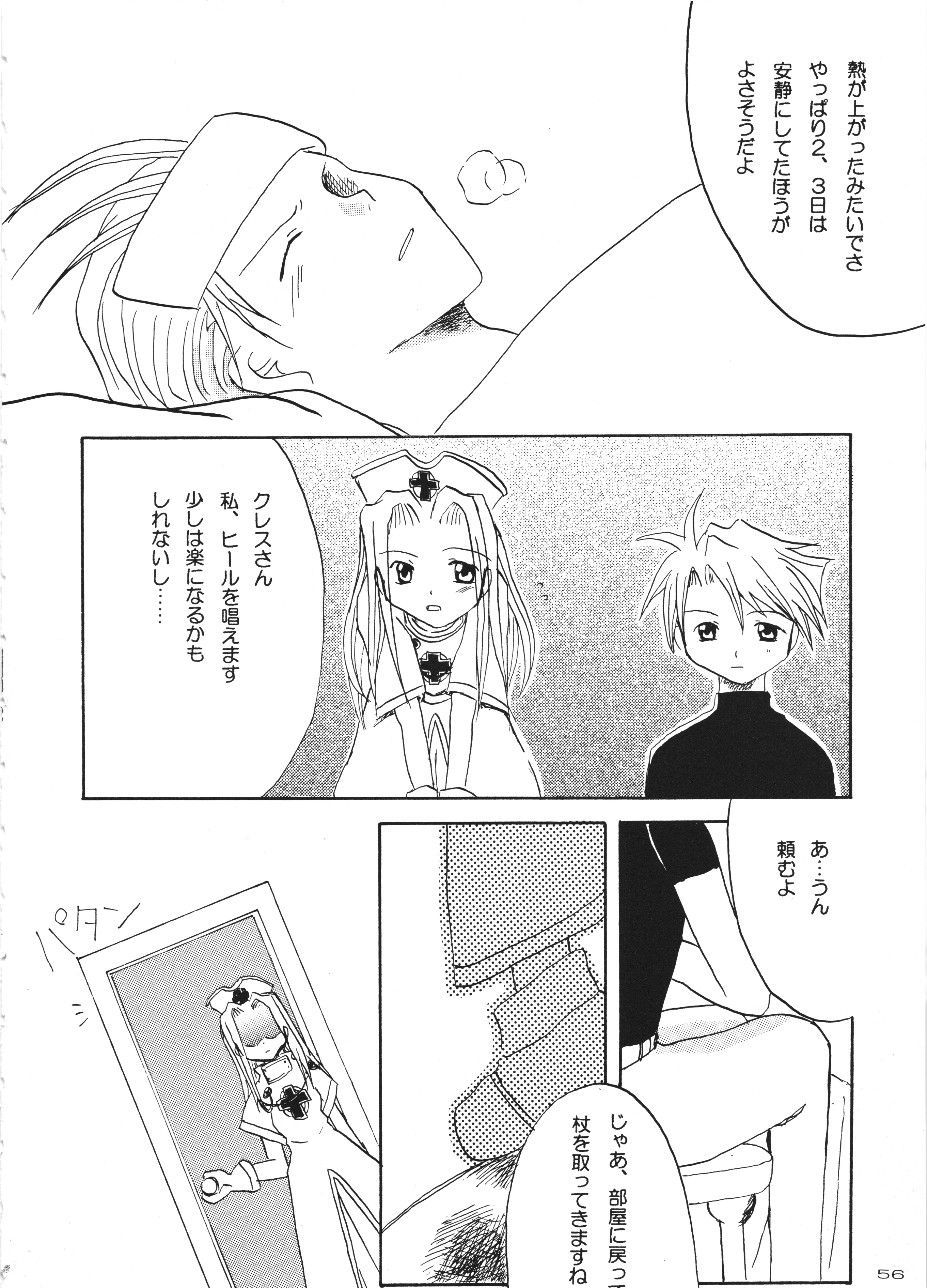
コメント返し(笑)

うおお!ありがとう、ちと!そもそもICQで突然「チェスアーのラブラブ小説書いてゲストして~!」likeといきなり(ホントにな)頼んだにも関わらず忙しいのに依頼を受けてくれた貴方に大感謝!しかも素敵に恋の始まりのヨ・カ・ンv(爆)って感じのチェスアーをありがとうっ!あああ嬉しいヨ!!話の内容についてはまったくのおまかせで、私はなんの打ち合わせもしなかったんだけど、ナチュラルに私の今回のマンガとシチュエーションが被っててシンクロっぷりが面白かったです(笑)うん、やっぱりチェスアーは普段からラブラブより喧嘩よね!(違)んで、ふと素直になってみたりして、お互いに意識しあうのね!うふふふふふふ(怪)<ツボシチュエーションらしい。ED後はラブラブになってほしいけどね!何だかちとと私のチェスアー像はかなり似ているようです(笑)
なにはともあれ同人デビウおめでとう!これからだね!(何!?)

ではではマンガの続きをお楽しみ下さい。　　霜月はるか



戻りました
あ、ミント
お帰り
あれ？
アーチェは？
部屋に戻りました
顔あわせづらいって
すみません
お薬は
売り切れてて
ああ…今は
眠ってるんだけど…
…チェスターさん
具合はどうですか？

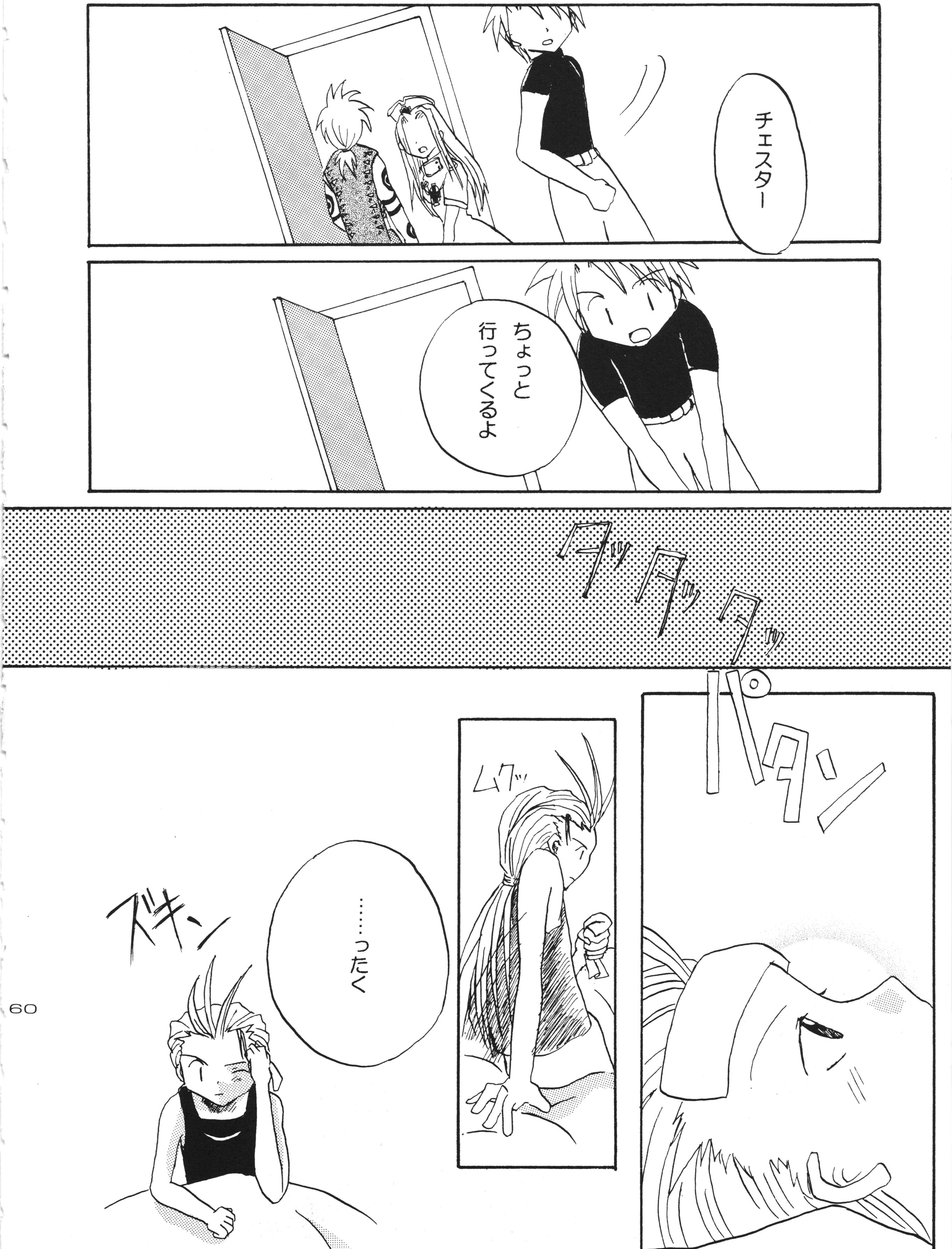

熱が上がったみたいでさ
やっぱり2、3日は
安静にしてたほうが
よさそうだよ
クレスさん
私、ヒールを唱えます
少しは楽になるかも
しれないし……
あ…うん
頼むよ
じゃあ、部屋に戻って
杖を取ってきますね
パタン



よっ！どうだ
チェスターの
様子は？
クラースさん
今は眠ってますけど
熱が下がらない
みたいで…
そうかー
一応メシの時間なんだが
そりゃ食えないいな
私、杖取って
きますんで…
そうか…
あ
ミント
アーチェは
どこ行ったか
知ってるか？
えっ……
あいつ
ほうき持って
どっか出かける
風だったがーー
もう夕飯の時間
なんだがなー


お、おいっ！
クレスさんっ
……ミント？
バタン
アーチェさん……
一人で森に行かれたかもしれません
森？
この村の南西にある森に熱さましになる薬草があると店の方が言っていたんです
アーチェさん、きっとそれを取りに……


アーチェがそう言ってたのか？
いえ、保証はありません……でも
なんだか嫌な予感がするんです
ミントの予感ももっともだな
あいつの事だきっと一人で行っちまうだろう
よし
探しに行こう



チェスター
ちょっと行ってくるよ
タッタッタッ
パタン
ムクッ
……ったく
ズキン


あんの
馬鹿ッ!!
暗くてよく
見えないなぁ

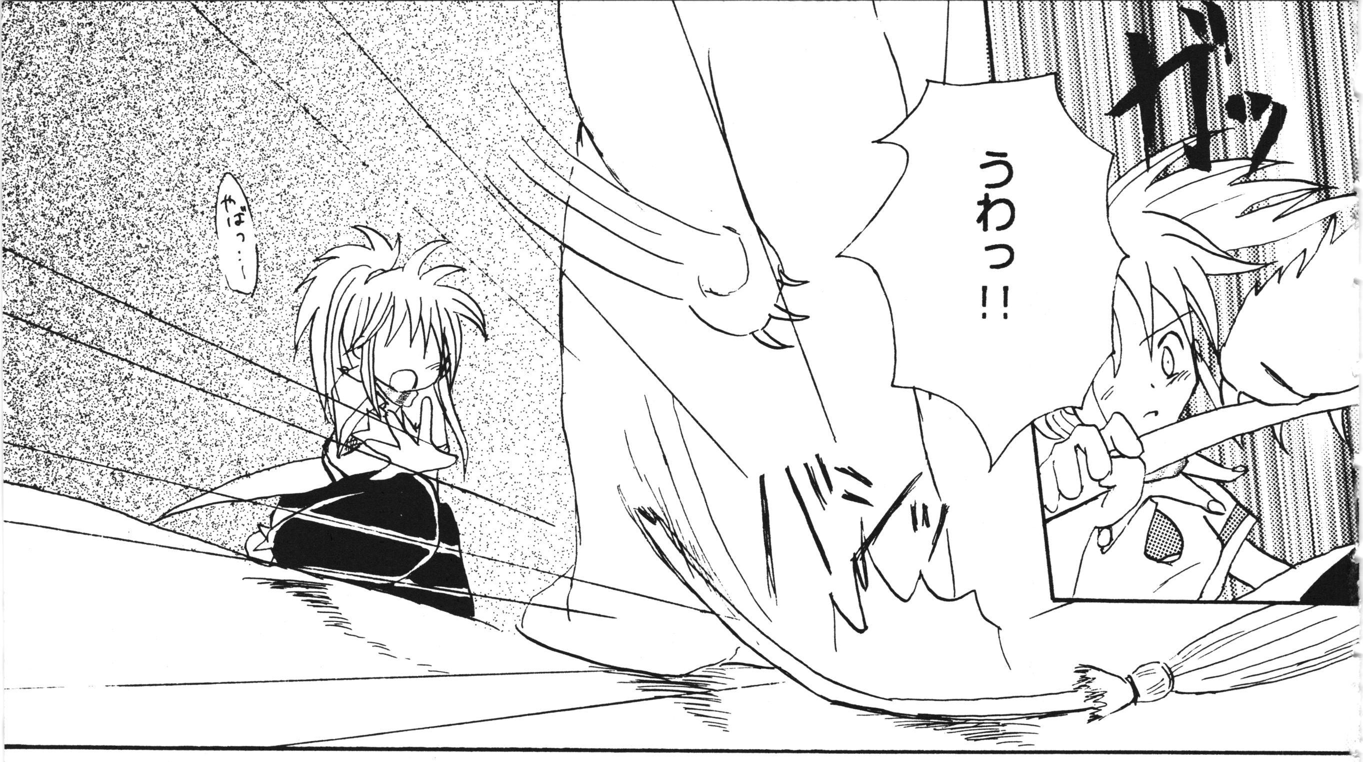

ライトニング
へへっ、さすがアーチェさんだね!
魔法も制御すればちょちょいとこんなもんよ!
これならすぐに見つけられるんじゃん


さぁて
レッツゴー
アーチェさーん!
まずいな
アーチェー
見通しが悪くなる何が出てもおかしくないぞ
ガサッ

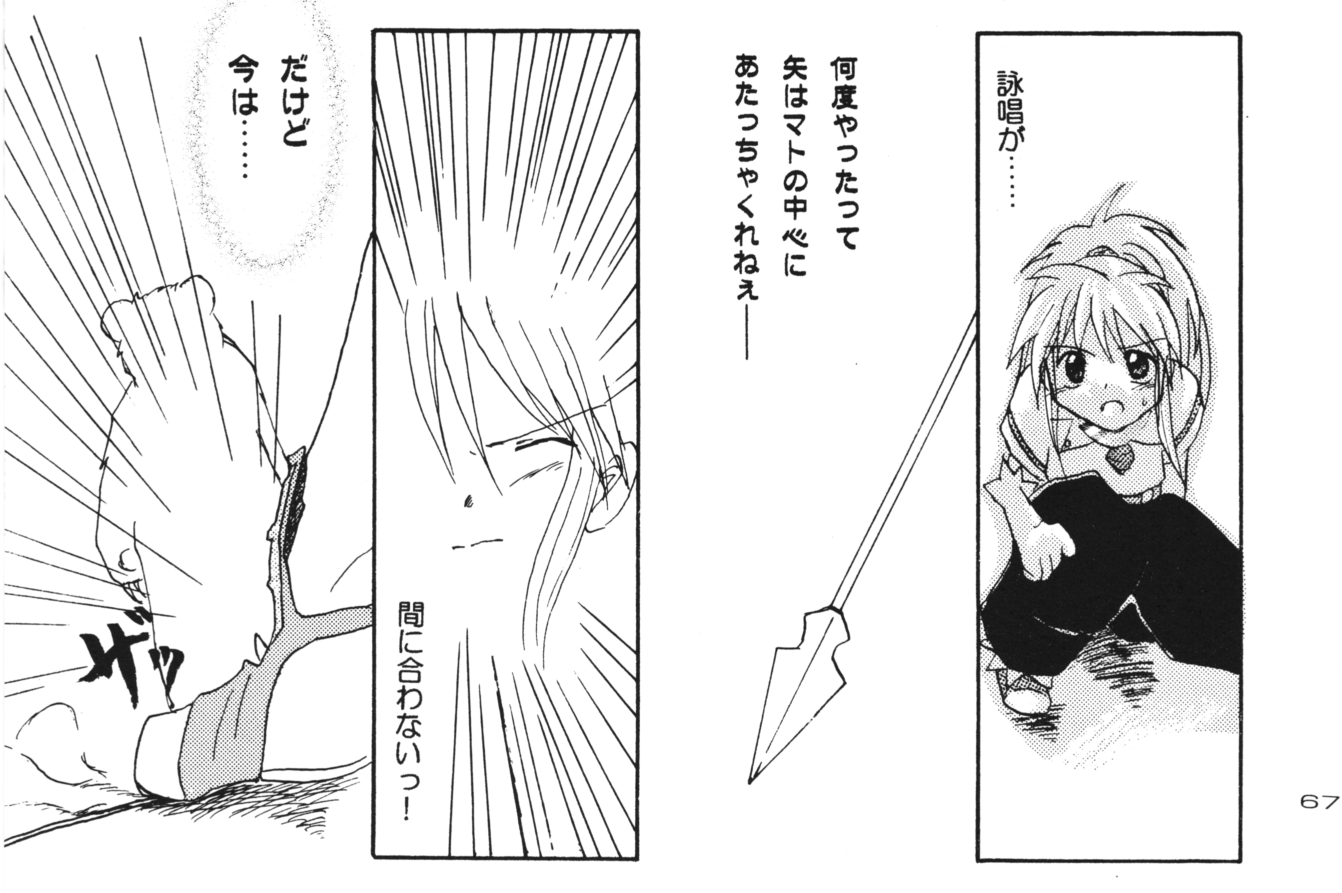

はぁ…はぁ…
アーチェのヤツ
どこ行きやがった
ザッ
うわっ
…いてて
ギャオオオオオ…
…ったぁ


えへへ…
あんたみたいにでっかいのに気付かないなんて
アーチェさんちょっと不覚だったかな……
ガッ
サッ
ファイアーボールッ
ドカーン


ドカーン…
はっ
今のは……
近いぞ
——力が欲しい
スッ
——誰にも負けない力が
全てを守れる力が
タッ
そう思って
俺は焦っていたんだ
ヒュン



でもそんな力　すぐに手に入るワケがなくて




この矢があたらないと
意味がねぇんだ!!
びんっ

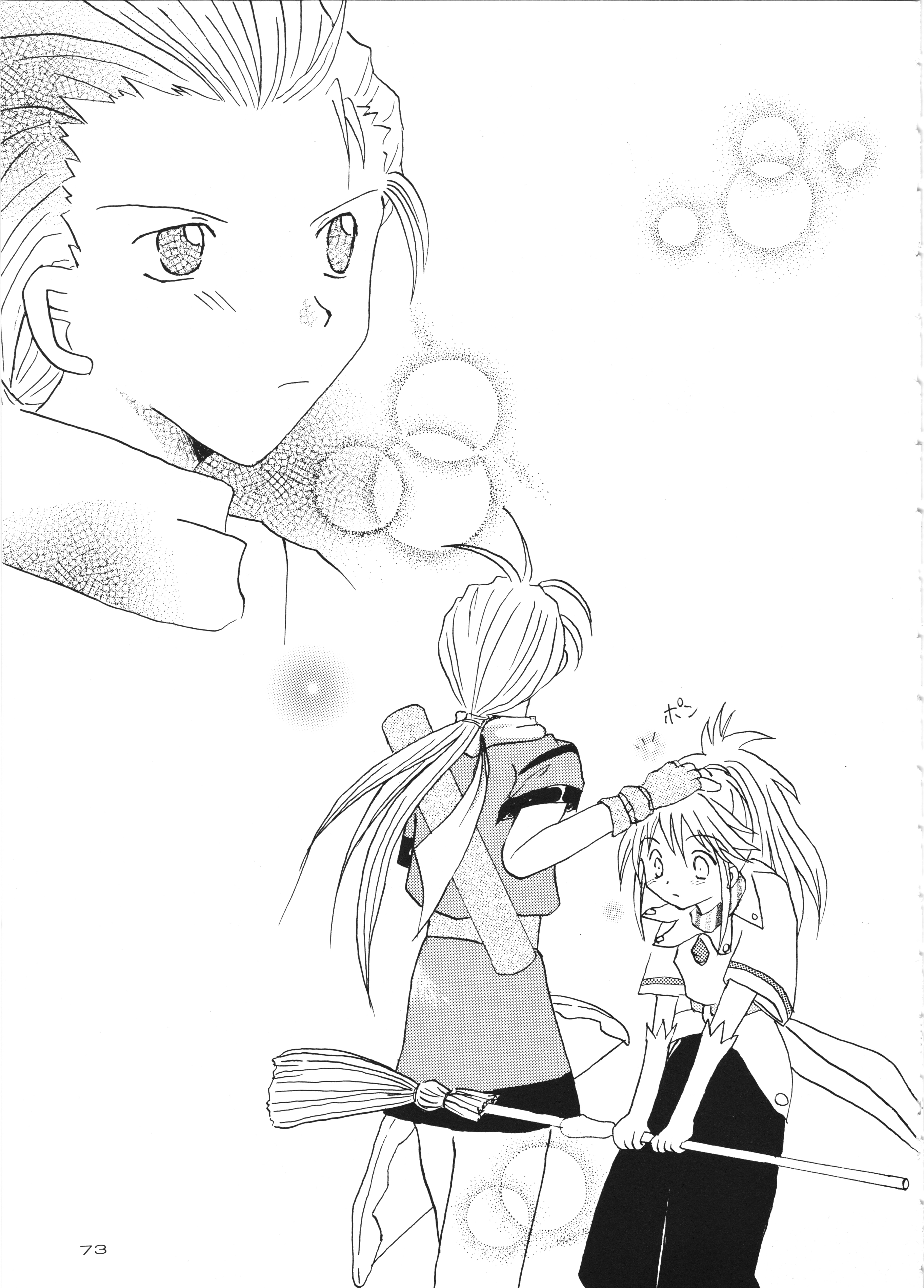

紅蓮ッ!!
ギャオオオオ
ドシッ
ユラリ…



ドスン。
プス
プス
っこらせ…
……
ぽーっ
ったく…一人で勝手な行動取りやがって
ほれほうき。


……
ケガ…したんだろ?
腕 見せてみろよ
た…大した事ないからほっといてよ!
あ、アタシのホーキ返してよねっ!
ピイッ
返してってお前なぁ
折角とってきてやったのに
スクッ
バッ
あー分かったよ勝手にしろっ!
カチン
くるんっ
だいたいあるかどうかも分からない薬草なんて一人で探してどうなるもんでもないだろ
ないって決まったわけじゃないじゃん!
むっ
それに…元はといえばアンタが勘違いして落っこって熱出して…
……


ピタッ
な……
何よ…？
くるっ
びくっ
無茶すんなよ
……バカ女

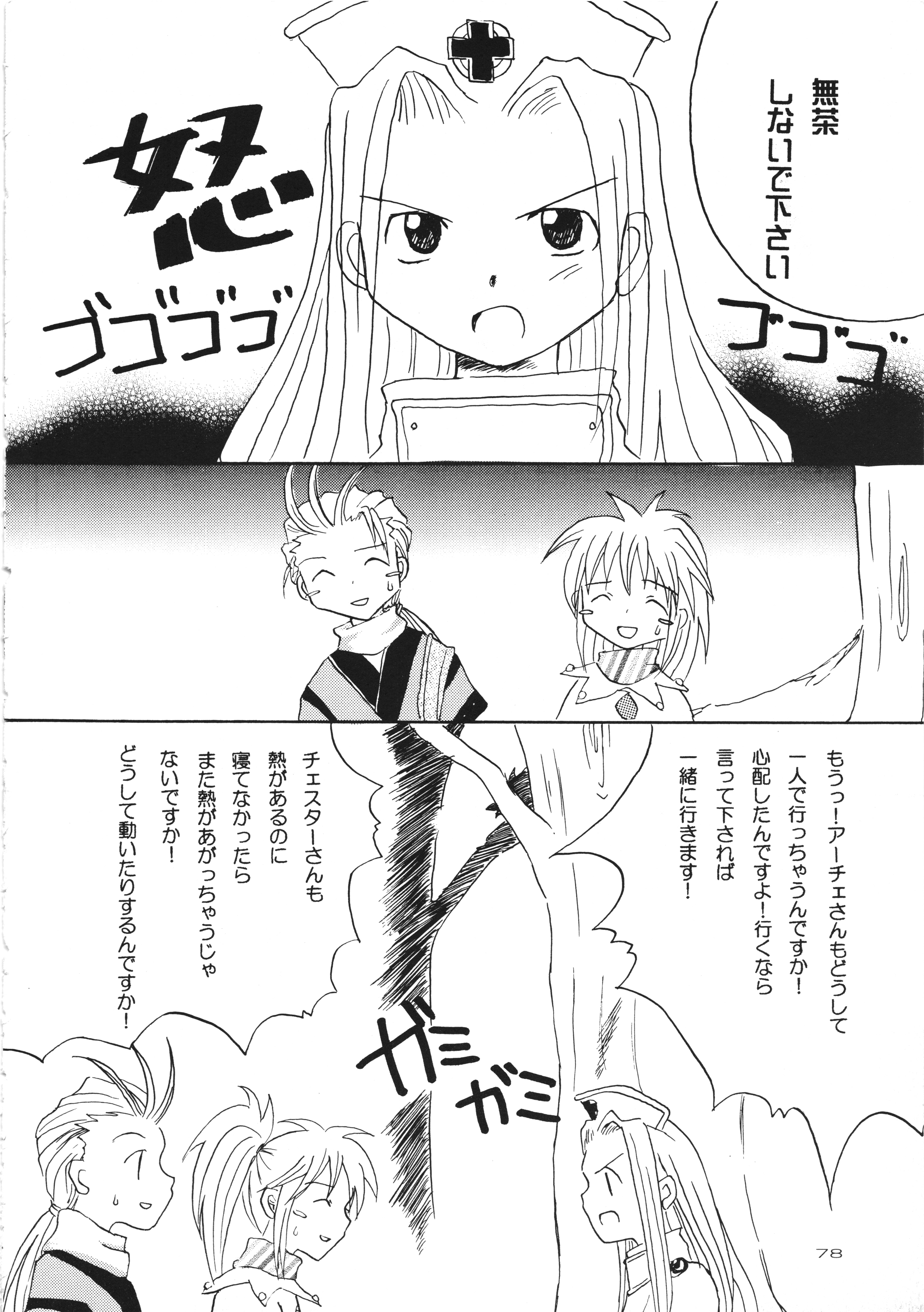

ポン

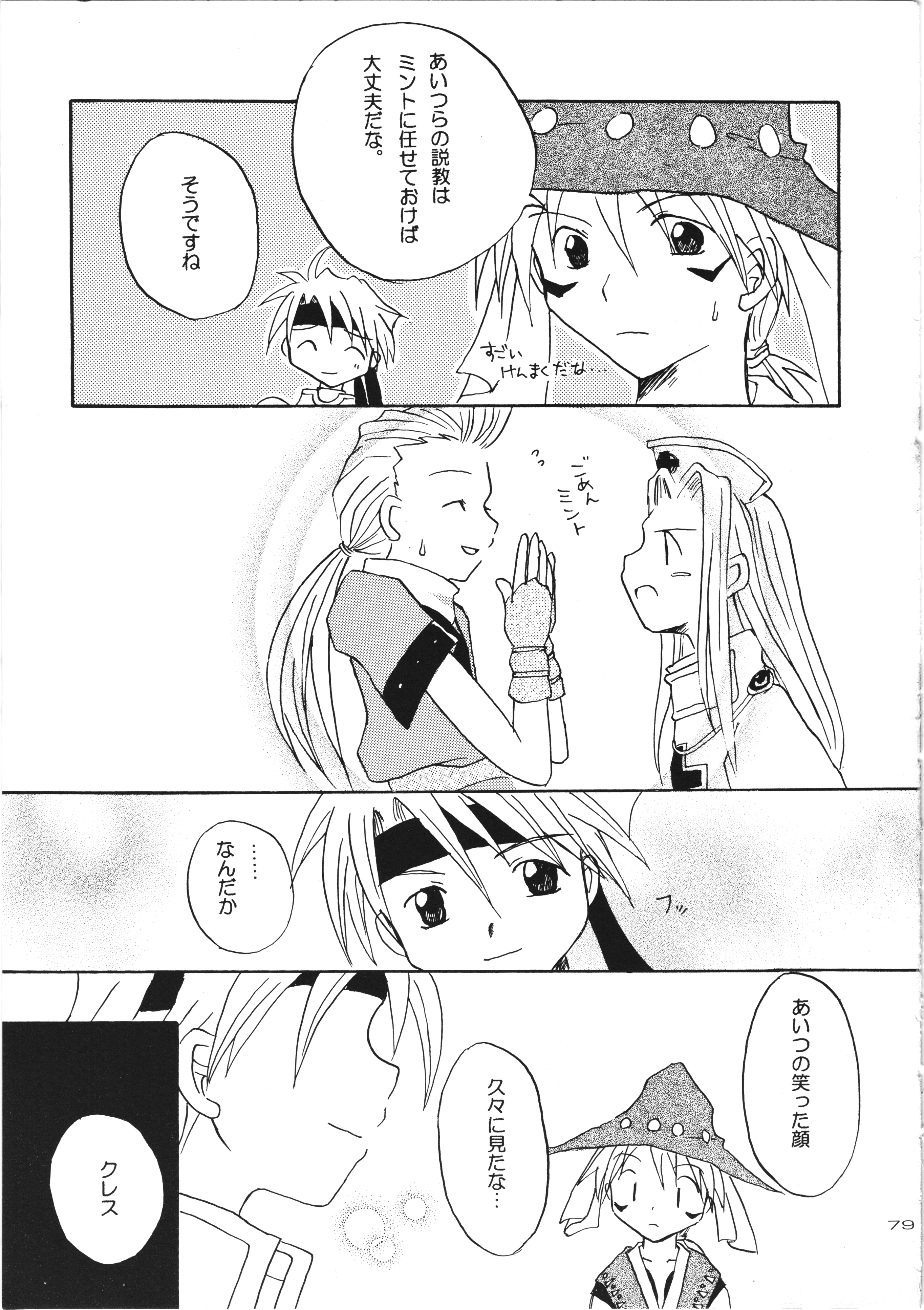

あんたもね
…バカ男ッ


なっ
ぼっ
何するんだよお前ーーッ！
あらあら 若いですねェ チェスターさん
可憐な乙女のキスでドキドキしちゃったとか？
ばっ
ばかじゃねぇの お前みたいなぺちゃんこ女に 誰がドキドキするっ つーんだよ！
だーれがぺちゃんこですってぇ!? このスケベ大魔王ッ
どーみたってぺちゃんこだろーが！
ぎゃあ ぎゃあ
あーやだやだっ そーいうトコしか見れない男って最ッ低ーーーッ
あ
ムキになるって事はもしかしてファーストだったとか？
ガーン


っ…の!!
ねんなわけーだろうが!!
いつのまにかフラフラと
飛んでっちまうコイツに
ぶんっ
ふわっ
ぶっ
間違って矢が
当たっちまわない様に
アーチェッ!!
降りてきやがれ
バカ女!!
あーあ 全く
ホントに〜っ?
アーハハハハ〜


オレは相当
弓の修練を積まなきゃ
ならないみたいだな――


無茶
しないで下さい
ゴゴゴ
怒
ゴゴゴゴ
もうっ!アーチェさんもどうして
一人で行っちゃうんですか!
心配したんですよ!行くなら
言って下されば
一緒に行きます!
チェスターさんも
熱があるのに
寝てなかったら
また熱があがっちゃうじゃ
ないですか!
どうして動いたりするんですか!
ガミ
ガミ


あいつらの説教はミントに任せておけば大丈夫だな。
そうですね
すごいけんまくだな…
ごめんミント
……なんだか
フッ
あいつの笑った顔
久々に見たな…
クレス



ミントが
大切か？
カアッ
なっ
いきなり
何言い出すん
ですか!?
大切かと
聞いているんだ
た…大切ですよ…
もちろん
あーもう
ヤケだ!
じゃあ聞くが
もしミントが目の前で
ダオスに殺されたら
お前さんはどうする？



そ…それは…
ありえない事じゃないだろう?
……
させませんよ
そんな事
絶対に…!
今のチェスターは
お前さんと同じ
強さを持っている
だからもう
大丈夫だろう
むー
予想通りの
反応だな
クッ
はい?

あそばれてるなクレス…。


?
僕と同じ強さ…って どういう事ですか? それに大丈夫…って…
はあ?
??
さてと… 夕飯にするとするか!
ここから先は自分で考えなさーい
あ…ちょっと クラースさんっ?
失う悲しみも 怖さも 乗り越えていける 心の強さ

それは　きっと　君がそこにいるから。

END♪

FREE TALK

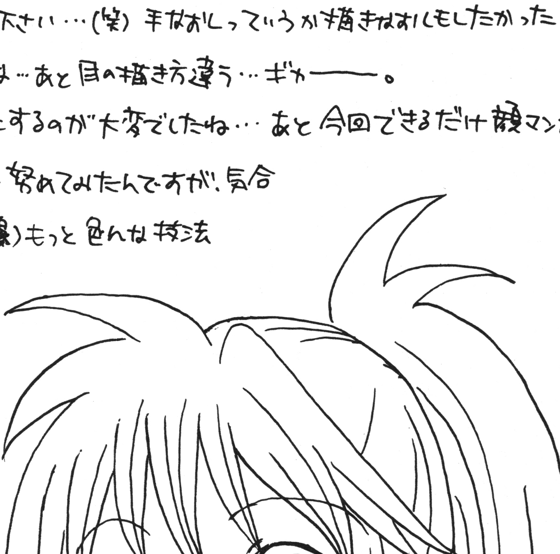
終わったあああああ!!!(04) MIRACLE MOONやっと描き終わりました…!! 初の長編ストマンいかがでしたでしょうか? ああ…これくらいP数あれば長編だよな…やったよおっかさ〜ん!(何)今回はちゃんとネームきって気合入れてがんばったつもりです! でもホント、マンガってむずかしくてなかなか伝えたい事が表現できないんですよね。まだまだ未熟者デスな。そんなワケでここでちょっと補足説明など。

今回の話は、時期的にはクレス達が現代でダオスと戦ってチェスターを助け、その後未来に行ってしばらくしたくらいです。(チェスがパーティーに入ってまだLV低い頃)つまりチェスター激弱な時です。チェスターはトーティスの悲劇のあと、皆のお墓作るために1人残りますよね。彼はホントに責任感強くて、自分がアミィを守ってやれなかった事をものすごく悔やんでるせめてものなぐさめにお墓を作るけど、それを作ってる時のチェスターの悔しそうな顔が目にうかびます。大切なものを失う悲しみ、悔しさをもう二度と味わいたくない…そのためには自分がすべてを守れるくらい強くならなきゃと思う。ダオス戦でも身をていしてクレス達を守ろうとして…で、一瞬後にはものすごい成長したクレスに助けられてパーティーに入ります(笑)自分のとなりで同じ歩幅で歩いてた親友は突然強くなって目の前に現れ、パーティー内では自分が一番経験が浅くて足手まといになりかねない…そんな状況はチェスターには辛くて、こんな事じゃまた何かを失うかもしれないという焦りでイライラして、単に強さを求めて…そうして追いつめられちゃうんじゃないかなあと思うんです。



人間焦ってる時は何事もうまくいきませんからね! 例えば仕事で失敗して、失敗をくりかえすのが怖くてびくびくしてる時ほど仕事はうまくいかないのと一緒です。失う事が怖くて、焦って強さを求めてもうまくいかない。でもこの焦りは、漠然とした何かを失うかもしれないという不安から生まれるものだと思うんです。これだけは失いたくない! っていう大切なものが大きければ大きいほど、

守りたい！っていう強い気持ちで失う事の怖さも乗り越えていけるんじゃないかと。大切なものがそばにいる人ほど強くなれるってヤツですね！チェスターの場合、アーチェがいたから、アーチェだけは守ってやる！っていう気持ちで、恐れを乗り越えてくれたならいいな——（ドリー夢）と思ってこの話描いたんですが…その辺が少しでも伝わってればいいなと思います。なんかチェスアー話っていうかチェスター話ですね（笑）悩める青少年って感じで…。こんな情けなくて悩んでるチェスター嫌!!って方ごめんなさい…（汗）もっとかっこいいチェスターもラブラブなチェスｖアーも描きたかったデス（笑）次はがんばるぞ!!（笑）←ラブラブを。
マンガ、前編と絵かわってますが気にしないで下さい…（笑）手なおしっていうか描きなおしもしたかったんですが無茶でした。ちょっと等身あがったかな…あと目の描き方違う…ギャ——。
全体的にコマ割りとかマンネリ化しないようにするのが大変でしたね…あと今回できるだけ顔マンガは避けよう！と思って色んな角度から描くように努めてみたんですが、気合の入ってるトコと入ってないトコの差が激しいです（爆）もっと色んな技法（？）が使えるといいなぁ…まだ全然手がついていきません（笑）もっと色んなコトを伝えられるように精進します!!



…とかいいつつ来年は一時休止なんですよね——（涙）就活で…しばらくはこんな長い話も描けそうにないです。ああTODのジョニーとフェイトの長い話書きたいな——（マイナーすぎ。）TOEのキールメル話もリファラ話も描きたいっス！しばらくはテイルズだなこれは…（笑）オンリーもあるしね!!
ああこれからゲームの方の音楽作りです——！最近パソコンから離れられない生活を送っている私。便利だよなぁやっぱり…色んな曲作れちゃうもんな——。機会があったら聴いてやって下さいね——！音楽の方も。
この原稿中のBGM、野猿、SANAちゃん、新堂敦士、ゲームサントラ多数（特にアンジェと遙時）、同人CD etc…

なんかとりとめのない字ばっかりのページでごめんなさい。
おつきあいありがとうございました——！

夏です。

あついよ〜

◆霜月はるか個人サークル「時間旋律」では、現在ファンタジア、エターニアを中心に気ままに活動しています。TOPはチェスアーTOEはキルメルかな…大イベント合わせで本作ってます。イベントは春・スパ・夏・冬コミ、たきめのシティ、昭島、あとはオンリーイベントに頻繁に出没します（笑）来年は一時休止しますが…。だいたい「時間旋律」でスペース取ってて直参なので、遊びに来てやってくださいv現在、委託者様募集中〜！（切実）

◆同人情報ペーパーをローペース（3，4ヶ月に1回くらい）ですが発行しています。80円切手同封の上お問い合わせ下されば最新のペーパーをお送り致します。どうぞご利用下さい。ちなみに通販はホームページの方でも行なえます。ネット環境のある方はどうぞ♪

◆来年2月にオンリー第2回を開催します。詳しくは次ページで！

〜連絡先〜

〒107-0062

東京都港区南青山5-4-10

B-202

長谷川方　霜月はるか

〜ホームページ〜

http://www.eclipse.gr.jp/largo/

〜メールアドレス〜

konoha@eclipse.gr.jp

その他、同人ゲーム制作サークル「teatail」にて音楽担当としてアドベンチャーゲーム他の制作に関わってます。個人の音楽サークル「Maple leaf」でもCDを制作中。音楽に興味がある方は是非〜vRPG系の曲ばっかりです。




2002年2月24日（日）
AM11:00～PM3:00
東京卸商センター3F
：主催：
時間旋律
月島屋
：協賛：
Noco企画
真夜中の王国
L/R
刻の旅人
テイルズシリーズ・スターオーシャンシリーズ・ヴァルキリープロファイル
オンリーイベント
LOOP OF FANTASIA 2



MIRACLE MOON
～お月様が中継局～

作詞・作曲・編曲　藤後浩文
vocal　Sana

逢いたくってどうしようもない夜
無情な距離に愛情が試される
こんなにも生真面目な二人
今時ちょっと表彰もんだね…

ねぇ、見上げてみて　今夜の夜空
見えているでしょ？お月様

愛の奇跡をみせてあげる
Do you believe in LOVE？
Yes, I'm just feeling now

電話だけじゃ届かない気持ち
E-mailだって切なくなるだけ
「今すぐに逢いに来て…」なんて
駄々っ子みたく、口にしちゃいそう…

でも、いつも逢えてた時よりずっと
近く感じる気がしてる

愛のchannelを合わせたなら
お月様が中継局

今、星の彼方に願いを込めて
二人をつなぐ交信術

愛の奇跡をみせてあげる
Do you believe in LOVE？
Yes, I'm just feeling now

愛のchannelを合わせたなら
お月様が中継局

Do you believe in LOVE？
Yes, I'm just feeling now

※今回の本のタイトルの由来になった曲
です～v私的チェスアーソング。
機会があったら聞いてみてねvカワイイ
曲なのですよ～v

はい、後記です。実はまだトーン残ってるんですがトーク残すとロクな事にならんので先に…まあ今も徹夜明けなんで頭フラフラなんですが(苦笑)なんとか石田さんと保志さんと井上さんと関さんの歌声をきいて起きてます。(分かる人には分かるネタだな…)さて、今回の本。同人はじめて4年間こんなに時間かけて1本の話を描いたことなかったので(36P本に6ヶ月かけたことはあるけど…爆)なんだかペース配分もできずネームも時間かかって色々大変でした…でもこんなに「描いた──!」って感じてるのもはじめてだったりします。前編は再録ですけどね(苦笑)後編に関していえば、今回ほとんどトーン自分で貼ってるんですよ。(オイ)いつもお手伝いに友達にきてもらったりしてアーチェとチェス太の服とかやってもらっちゃったりしてたんですが自分でやってるとこのめんどくさい服に嫌気が…ってデザインとかはもちろん大好きなんですけどね…お友達にいつも苦労かけてたなと反省しました…ごめんみんな!! でもまたたのむかも….(ダメじゃん)
とにかくこの本作れて私は大満足です!チェスアーで活動はじめた時からいつかこの話は描こう!って決めてたので、なんとかカタチにできてとりあえず良かったかな。でもまだチェスアー的に描きたい話はいくつかあるんで、これからもちまちま活動していきたいです。ED後とか…もっとラブラブしたチェスアーも描きた〜い!(笑)ホント、この2人大好きです。どっちも大好き。ごはん何杯でもいけますヨ!(何)

そろそろシメ。ここまでお付き合い下さいましてありがとうございます!! よろしければ感想などきかせて下さるとワイール!って感じです(日本語?)お手紙でもメールでもスペースで一言でも…それを活力にがんばりますので!!
ではでは!! おつかれさまでした〜!またどこかでお会いできましたら幸いです

2001年7月　霜月はるか.



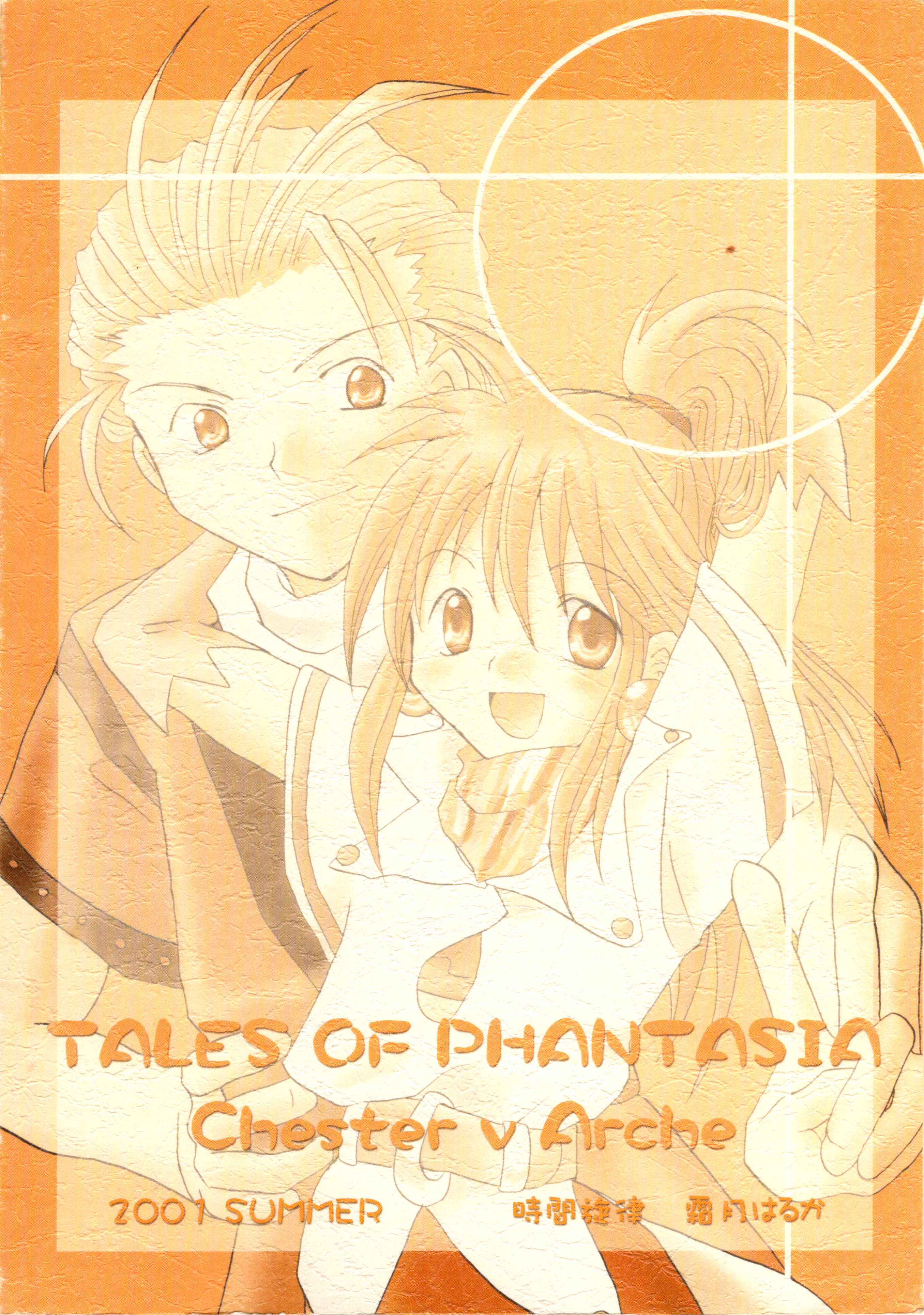
私信

▶ゆめこちゃん → お手伝いありがとう!! ホント助かったよ!!(涙)
▶今ぴょん → 戦友よ!(笑)今回も色々と世話になったよー!
ありがとう。またやろうネ!
▶あゆみっち、なっちゃん、たかのさん → お泊まり原大楽しかったよー!ありがとう!!
▶ひやまん → ホントにいつも修羅場茶つきあってくれてありがとネ!! おつかれイズ〜!!
▶えた茶常連さん(笑) → 御心配おかけしました(汗)アタシか如たよ!!!(笑)

おくづけ

発行日：2001年8月10日
発行：時間旋律
発行者：霜月はるか
印刷：金沢印刷様（お願いします；；）

連絡先
〒107-0062 東京都港区南青山5-4-10 B-202
長谷川方 霜月はるか
（ご意見、ご感想常時募集していますv）


TALES OF PHANTASIA
Chester v Arche
2001 SUMMER
時間旋律　霜月はるか